

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科
創立50周年記念誌

輝 き

1968-2018

光輝

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科
創立50周年記念誌

輝 き

1968-2018

光輝

❧ 教育目標 ❧

- ❖ 歯科衛生士法に基づき、新しい知識と技能を授け、更に高い倫理観と謙虚にして飛揚する志をもつ歯科衛生士を育成する。
- ❖ 口腔衛生の普及と進展を図り、生命を愛し、こころ豊かな人間性を涵養せしめる人材を育成する。

❧ 教育方針 ❧

- ◆ 適切な判断力と豊かな創造力を育てる
- ◆ より高きを求め努力する態度を育てる
- ◆ 謙虚な探究心を育てる



目 contents 次

祝 辞	一般社団法人 秋田県歯科医師会 会長 藤原 元幸	6
	秋田県歯科医療専門学校 校長 星野 滋	7
	秋田県知事 佐竹 敬久	8
	秋田市市長 穂積 志	9
	公益社団法人日本歯科衛生士会 会長 武井 典子	10
	一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 理事長 眞木 吉信	11
	一般社団法人秋田県歯科技工士会 会長 今野 悟	12
	一般社団法人秋田県歯科衛生士会 会長 甫仮 貴子	13
	秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 同窓会秋路会 会長 古谷 博子	14
記念講演		17
記念式典		21
	御来賓御芳名	22
	表彰者御芳名	23
	50年のあゆみ スライド	24
	記念式典スナップ	32

◆ 記念祝賀会	39
記念祝賀会スナップ	40
◆ 記念寄稿文	
卒業生	47
在校生	63
旧役員・教職員	67
現役員・教職員	73
◆ 振り返る20年	
平成9年度～平成30年度	81
◆ 50年のあゆみ	
50年のあゆみ	105
学校役員・各種委員・教職員名簿	120
歴代講師名簿	121
編集後記	125



「創立 50 周年に寄せて」

一般社団法人 秋田県歯科医師会
会長 藤原 元幸

この度、秋田県歯科医療専門学校は、昭和 43 年 4 月に設立されて以来 50 年目の記念すべき年を迎えました。これまで、本校を支えて頂きました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本校は、秋田県歯科医師会が歯科衛生士の育成を目的に、秋田市中通の旧歯科医師会館内に秋田県歯科衛生士学院として、当時の会長稲葉宏先生の元で設立しております。昭和 45 年 4 月に秋田市山王に新築移転の際には、会員各位のご負担はもとより、秋田県並びに秋田市のご支援をいただいております。

「豊かな人間性と知識と技術の調和を図り、人と社会に貢献できる歯科衛生士の育成を目指す」ことを教育方針に掲げ、秋田県内唯一の歯科衛生士養成校としてこれまで 2000 余名の卒業生を輩出しており、県内外の病院、診療所及び保健所等で活躍しております。これも偏に永年にわたりご尽力いただいた講師の方々をはじめ、本会会員及び関係各位の皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます次第であります。

この 50 年間の歯科衛生士養成課程の変容には目を見張るものがあり、本校も昭和 59 年 4 月から現在の校舎に移転し、同時に 2 年制課程に移行しております。平成 16 年 9 月に歯科衛生士学校養成所指定規則が改正され、修業年限が 3 年以上と定められました。教育内容の大綱化の実現が図られ、平成 22 年 4 月からは全養成校の修業年限が 3 年以上となっております。

また、大学の歯科衛生士学科の設立が相次ぎ、歯科衛生士養成課程の大学化に拍車がかかっており、そうした中、本校では多様化する歯科衛生士業務への対応と、より専門性の高い歯科衛生士を育成するために、平成 20 年度より 3 年制課程に移行しました。

秋田県では少子高齢化が進んでおり、人口千人に対する出生率は 5.4 で全国最下位、また、高齢化率は全国で最も高い 36.3% という状況です。そうした中、子供の歯科疾患においては予防と管理が主流となり、高齢者に対しては口腔ケアによる肺炎の予防や QOL の向上が健康寿命の延伸にもつながるということで積極的な取り組みが進められております。これらすべての事象に於いて、歯科衛生士の役割は重要であり、今後その必要性がますます高まってくるものと確信しております。

この創立 50 周年を、100 周年を見据えての節目の年と位置付け、これから迎えるさらに厳しい歯科医療を取り巻く環境で歯科衛生士を育成していくために関係役職員一同、本校の発展に一層の努力を傾けて参る所存であります。

開校 50 年、幾多の困難を乗り越え半世紀を刻むことが出来たのは、本会会員の皆様や同窓生の皆様からの温かいご支援と、更には歴代講師の皆様の努力のおかげであります。この大きな節目を機に、皆様の期待にさらに応えるべく、新たな気持ちで、全力を尽くしていきたいと思っております。今後とも一層のご指導ご後援をお願い申し上げます。



創立 50 周年にあたって

秋田県歯科医療専門学校
校長 星野 滋

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科は本年、創立 50 周年の記念すべき年を迎えることができました。これまで、本校の発展のためにご尽力いただきました関係各位に、心から敬意を表しますとともに厚く御礼申し上げます。また、創立 50 周年を皆様と共に心よりお祝いしたいと思います。

さて、これまでの本校の道のりを振り返ると、昭和 43 年秋田県歯科医師会により、本県初となる、一年制歯科衛生士養成機関として「秋田県歯科衛生士学院」が創立されました。創立時は募集定員 20 名で、56 名が受験し第一期生として 32 名が入学しています。本校の創立は、女性の生き方が変わり、女性の社会進出が進んでいく時期とも重なり、本校への期待は徐々に大きくなって行き、このあと募集定員は拡大していくことになります。

昭和 45 年に校舎を山王に新築・移転、募集定員を 30 名とし、さらに昭和 59 年には、より豊かな医学知識と高度な技術を持つ歯科衛生士養成のため、二年制課程に移行しました。このとき、校舎を現在の八橋に新築・移転し、募集定員を 50 名としています。

そして、平成 12 年には現在の介護職員初任者研修課程にあたる、ホームヘルパー 2 級課程を導入し、歯科衛生士免許とあわせ、ダブルライセンスの取得を可能としました。

そしてさらに、平成 20 年、高齢化の進展や医療の高度化及び専門化に対応し、歯科衛生士の資質向上が求められる中、全国に先駆けて三年制課程に移行しています。

このように、50 年の歴史を振り返るとき、この間の歯科医療を取り巻く激しい社会の変化にも、歴代校長の教育に対する高い理念と情熱のもと、多くの本県歯科医療関係者の適切な対応や努力により、本校は着実に発展して来たことがわかります。

現在、社会は少子高齢化の進行など急激な変革期にあり、今後さらに急激に変化していくものと思われます。この中にあって学校運営も厳しくなることが予想されます。しかし、本校はこれからも学生の能力を最大限に引き出し、本県歯科医療の充実・発展に力を発揮できる人材育成のため、充実した教育環境を整えて参ります。そしてさらに、地域の高等教育機関として、地域の活性化と歯科医療の充実に向けその役割を果たし、次の百年に向けて歴史のページを重ねていく所存であります。

ここに本学がたどってきた 50 年の歴史を顧みて、関係各位の皆様方のご支援、ご尽力に感謝申し上げますとともに、今後一層のご指導ご後援をお願い申し上げます。



創立50周年記念に寄せて

秋田県知事 佐竹 敬久

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が創立 50 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

また、星野滋校長先生をはじめ、関係者の皆様には、昭和 43 年の秋田県歯科衛生士学院の開校以来、本県唯一の歯科衛生士養成機関として多くの優秀な人材を育成し、県民の歯科疾患の予防と口腔衛生の向上に長年にわたり御尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

県では、人口減少を克服し地域の活力を維持するため、高齢になっても元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会の実現に向け、県民総ぐるみで健康づくりに取り組む県民運動を展開しております。

この県民運動では、「健康寿命日本一!」を目指し、県民の死因割合が高い生活習慣病の発症リスクを低減するため、「運動」「減塩・野菜摂取」「受動喫煙ゼロそして禁煙」を重点取組目標として普及しているほか、歯と口腔の健康増進は全身の健康維持の基本であることを踏まえ、8020 運動の更なる推進に取り組んでまいります。

良好な口腔環境を維持することは、生涯美味しい食事を楽しむことを可能にし、健康で活力のある生活の維持にもつながりますが、歯と口腔の疾患は、幼少期から高齢期まで生涯にわたり発生リスクを伴うものであることから、歯と口腔に関する正しい知識や疾患予防の重要性など、ライフステージに合わせた歯科保健に関する生涯教育が不可欠であります。

このような中、歯科衛生士の就業場所は医療機関のほか、介護施設、市町村、事業所等の多岐に渡っており、地域包括ケアシステムが構築されている中で、歯科衛生士の責務が増すとともに、医療介護職を始め多職種との連携が求められるなど、多様な場面での活躍が期待されております。

貴校においては、こうした社会環境の変化を捉え、卒業時に歯科衛生士国家試験の受験資格と介護職員初任者研修修了の認定が得られるカリキュラムを編成し、時代の多様なニーズに対応できる歯科衛生士を養成するとともに、有為な人材の県内定着に寄与していただいているところであり、今後も更なるご尽力を御期待申し上げます。

結びに、県内唯一の歯科衛生士養成機関である貴校の益々の御発展と皆様の御健勝を御祈念申し上げ、祝辞といたします。



秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立 50 周年記念誌によせて

秋田市長 穂積 志

このたび、秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が、創立 50 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴校歯科衛生士科におかれましては、昭和 43 年の開校から今日に至るまで、50 年もの長きにわたり、歯の健康を維持する歯科衛生士の養成を通じて、本県の口腔衛生の普及と発展に大きく貢献されてこられました。

このことは、ひとえに皆様のたゆまぬご努力とご尽力の賜物と深く敬意を表します。

さて、我が国では、医療技術の進歩や公衆衛生の向上により平均寿命が延伸しており、いまや「人生 100 年時代」とも言われております。

その一方で、少子高齢化とともに、がんや脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が増加し、要介護状態となってしまう方の増加が深刻な社会問題となっており、国を挙げて「健康寿命の延伸」に取り組んでいくことが求められております。

このような中、本市におきましては、健康寿命の延伸を図るため、本市の健康づくりのマスタープランである「第 2 次健康あきた市 21」の重点分野の一つに、「歯・口腔の健康」を掲げ、むし歯・歯肉炎・歯周病の予防、口腔機能の維持・向上などに積極的に取り組んでおり、10 月の本市の「健康づくり月間」では、「歯と口腔の健康」をテーマに、有識者による講演会や標語入選者の表彰を行うなど、歯の健康に関する知識の普及・啓発事業を展開しているところであります。

加齢とともに運動機能や認知機能が低下する、いわゆる「フレイル」は、口腔機能の低下がその要因の一つにもなっていることから、人生 100 年時代にあっては、歯科医院や在宅での口腔ケアの重要性はますます高まっていくものと考えております。

そのためには、地域における歯科衛生士のお力が不可欠でありますので、引き続き、貴校におかれましては、県内唯一の歯科衛生士養成機関として、有為な人材を多数輩出されることを大いに期待しております。

結びに、貴校がこの度の節目を契機としますますますご発展されますとともに、皆様のさらなるご活躍とご健康を祈念し、お祝いの言葉といたします。



創立 50 周年に寄せて

公益社団法人日本歯科衛生士会
会長 武井 典子

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科の創立 50 周年、誠におめでとうございます。創立以来、歯科衛生士教育の発展にご尽力賜りました秋田県歯科医師会はじめ学校関係者の皆様には深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

日本においては、1948(昭和 23)年に歯科衛生士法が制定・公布されました。そして翌年の 1949(昭和 24)年に歯科衛生士の養成が始まり、1950(昭和 25)年に最初の歯科衛生士が誕生しました。

歯科衛生士法第 1 条には「この法律は、歯科衛生士の資格を定め、もって歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的とする」とあり、きわめて今日的な目的の下に第 2 条の業務を定義しています。法制定当時の業務は「歯・口腔疾患の予防処置」に限られていましたが、1955(昭和 30)年の法改正で、それまで看護師の業務独占であった「歯科診療の補助」が歯科衛生士業務に加わり、さらに 1989(平成元)年の法改正により歯科衛生士の名称を用いた「歯科保健指導」が導入され、三大業務が確立しました。この改正では、併せて、歯科衛生士免許が都道府県知事から厚生労働大臣になり、全国統一の国家試験になりました。

最初の歯科衛生士養成課程の卒業者数は 70 名でしたが、現在は毎年 7,000 人以上の卒業となり、また就業者数もここ 50 年間で 44 倍に急増しました。現在、日本はアメリカに次いで世界で 2 番目に就業歯科衛生士数が多い「歯科衛生士大国」です。歯科衛生士の主な就業場所は、歯科診療所が 90.6% と圧倒的に多く、地域包括ケアシステムの構築が急がれるなか、診療所の歯科衛生士も多職種と連携しながら地域に出て、その専門性を発揮することが求められています。在宅療養者や要介護高齢者の口から食べる機能を維持して低栄養や誤嚥性肺炎を予防するなど、口腔健康管理を担う歯科衛生士の役割に期待が高まっております。

これらの社会ニーズに応えるためには、学校教育から継続したしっかりとした生涯研修が必要であり、本会におきましても来年 4 月から e ラーニングを取り入れた生涯研修の拡充に向けて注力しております。さらに、「歯科衛生士は一生の仕事、組織でデビューから復帰までを応援します」を合言葉に、都道府県歯科衛生士会と協力して、地域で新人歯科衛生士の離職防止や復職支援を行うための指導者育成のためのワークショップを全国的に実施しています。

このようなダイナミックな変化のなか、秋田県歯科医療専門学校が、50 年の歴史を礎として、21 世紀型の歯科衛生士の人材育成を目指し、ますます発展されることを祈念いたします。



祝 辞

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
理事長 眞木 吉信

このたび、秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が創立 50 周年を迎えられましたことに、全国歯科衛生士教育協議会を代表して心からお祝いを申し上げます。

戦後の混乱期の中、昭和 23 年に国民の歯科予防処置を目的とした職種を位置づける歯科衛生士法が誕生して 70 年という記念の年に、秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が創立 50 周年を迎えられたことになります。歯科衛生士法に基づく歯科衛生士の教育は、当初 1 年制課程で始まり、「歯科診療の補助」や「保健指導」といった新たな業務が加わって現在の 3 年制課程に至っております。この 5 年間を見ても、女性の職種を規定した「女子」が法律から削除され、歯科医師の「直接の」指示という規定が改正されて、歯科医療における歯科衛生士の役割が明確になりつつあります。昭和 43 年に創設された貴校は、一時期歯科技工士科を併設していた時期もあるように、秋田県における歯科医療専門職の唯一の養成校として、地域保健医療に重要な役割を果たしてきたことは間違いありません。

全国的に見ると、歯科衛生士の教育に当たる養成機関は、本協議会が発足した昭和 37 年当時の 18 校から始まり、5 年前には 155 校になり、現在は 165 校と 5 年間で 10 校に上の増加を示しております。法制定当初は 1 年制教育であったものが、平成 22 年からはすべての歯科衛生士養成機関が 3 年制以上になり、歯科衛生士国家試験の出題基準も平成 29 年に 6 年ぶりに改訂されました。これを受けて全国歯科衛生士教育協議会では「歯科衛生学教育モデルカリキュラム」を一新いたしました。これらの新しい教育指針の中では、歯科保健・医療・福祉の現場における、口腔健康管理を目指した口腔衛生と口腔機能の充実を図るため、ケアのプロセス「歯科衛生過程」を明確にした基礎と臨床の教育が求められているところです。

全国歯科衛生士教育協議会は、会員加盟校の増加と教育課題の解決を図るために、日本歯科衛生士会や日本歯科医師会の協力や支援をいただき、厚生労働省や文部科学省にも歯科衛生士の教育の充実を提言すべく、平成 29 年に法人化（一般社団）いたしました。秋田県歯科医療専門学校におかれましては、東北地方の歯科衛生士教育の重要拠点として、今後とも全国歯科衛生士教育協議会へのご協力を期待しております。

最後に、秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科の 50 年にわたる輝かしい歴史に敬意を表するとともに、今後のますますの発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立 50 周年記念誌によせて

一般社団法人秋田県歯科技工士会
会長 今野 悟

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士の創立 50 周年という記念すべき節目を迎えられましたことを衷心よりお祝い申し上げます。

私も、衛生士学院が開校してから 13 年後の昭和 51 年に開校した歯科技工士学校に第 5 期生として入学しました。歯科技工士学校は平成 20 年に閉校となりましたが、衛生士学院の皆様と共に山王にありました旧歯科医師会館を学び舎としたものとして感慨深いものがあります。当時、衛生士学院は 1 年制でしたが、昭和 59 年には 2 年制に移行、平成 20 年には衛生士学校養成所指定規則の一部改正により 3 年制課程となりました。さらに平成 12 年には、ホームヘルパー 2 級課程を導入—これは全国に先駆けて導入された画期的なことと伺っております。そして平成 26 年には法改正により介護職員初任者研修課程が導入されました。

こうした時代の変化に対応して、50 年もの歳月を重ねてこられたことに歴史の重みを感じずにはられません。

今は、言わずと知れた少子高齢化社会です。地域包括ケアシステムの中で、在宅歯科診療・医療間での連携によるチーム医療では、口腔ケアはもちろんのこと、口腔機能の管理や摂食嚥下リハビリなど、より高い専門的な技術が求められる時代です。

経験豊富で優れた教務スタッフの皆様が歯科衛生士としての知識や技術を習得させることのみならず、患者に相対する態度やコミュニケーション能力を向上させ、また礼儀作法やしつけにも力を注ぎ指導されていることに改めて敬意を表します。

この創立 50 周年を新しい幕開けと捉え、これまで受け継がれてきた精神を継承するとともに、人と社会に貢献できる歯科衛生士を育成する永続的な学び舎として、貴校がますます発展されることを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



秋田県歯科医療専門学校創立50周年に寄せて

一般社団法人秋田県歯科衛生士会
会長 甫仮 貴子

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が創立 50 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、設立から今日までの永きにわたり歯科衛生士教育にご尽力されました歴代の秋田県歯科医師会会長をはじめ、学校長ならびに教育関係者の皆様に深く敬意を表したいと存じます。

歯科衛生士法が 1948 年 (昭和 23 年) に制定され、今年で 70 年になりました。その間、業務の追加、教育年限の延長、法の一部改正などを経て、歯科衛生士の担う役割は大きく向上して参りました。そうした時代の変遷の中においても、たゆまぬ歩みを続けて多数の優秀な人材を県内外に輩出してこられましたことは畏敬の念に堪えません。

本会もほぼ時を同じくして、この度、50 周年の節目を迎えました。50 年の歯科衛生士会の歴史を紐解く中でも、貴校の卒業生のご活躍の軌跡は、特筆するものがございます。本会も貴校とともに歩んできたと言っても過言ではありません。

日本は今超高齢社会を迎え、私たち歯科衛生士には保健・医療・介護と連携した業務の実践により健康寿命の延伸に寄与することが期待されています。そして、今後はますます歯科完結型の疾病対応にとどまらない、自立した生活の基盤に関わる “食べる” “話す” などの口腔機能の維持・向上に関しても、多職種連携のもと歯科衛生士としての専門性を発揮することが求められるようになって参りました。こうした転換期の中においても、時代のニーズに対応できる自ら主体的に考え行動でき、なおかつ豊かな人間性を持った歯科衛生士の人材育成を今後とも継続されますよう願うところでございます。

これからも秋田県歯科医療専門学校が 50 年の歴史を礎に、ますますご発展されますよう、また県内唯一の歯科衛生士の養成機関として、優秀な歯科衛生士の輩出を通じ秋田県の歯科口腔保健の向上に貢献され続けますよう祈念申し上げます。また、私たち秋田県歯科衛生士会も貴校と共に地域の歯科保健活動を支え、県民の歯と口の健康増進に寄与して参りたいと存じます。貴校の更なるご発展と卒業生のご活躍を祈念申し上げ、ご祝辞とさせていただきます。



秋田県歯科医療専門学校創立50周年によせて

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科
同窓会秋路会 会長 古谷 博子

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科、創立 50 周年を同窓会の皆様と共に心からお慶び申し上げます。

昭和 43 年歯科衛生士学院として、1 年制課程、昭和 51 年からは歯科技工専門学校の 2 年制課程と山王の旧歯科医師会館で学びました。昭和 59 年には、現在の八橋に歯科衛生士科の新校舎に移転し歯科衛生士も 2 年制課程に移行され、平成 4 年からは衛生士の試験も厚生省による全国統一の国家試験となり、平成 7 年からは、専門士の称号が付与されることになりました。

平成 9 年には、秋田県歯科衛生士学院と秋田県歯科技工士学校を統合して、秋田県歯科医療専門学校と校名が改称されました。

平成 12 年からは、訪問介護員 2 級課程の導入、平成 20 年からは歯科衛生士の 3 年制課程になり、平成 21 年からは社会人入試も導入され、平成 26 年からは介護員 2 級課程に替わり、介護職員初任者研修になりました。

歯科衛生士として、国家試験に合格し専門士の資格を得て医療人として益々必要とされている事、歯科衛生士は一生の仕事としていろいろな所で発揮できます。子供から大人まで年と共に自分の歯で美味しい食事が出来ることは幸せな事です。8020 運動など歯科に関する事、多職種連携、チーム医療の一員として活躍できる事が重要視されてきております。医科からの依頼等もあり学んだ事は何かの形で活かされています。日々医療は、進歩しています。歯科衛生士として働く場所もいろいろあります。秋田県は高齢化が進み、健康で元気に長生きする事また認知症の事に関しても、高齢化が進んでいる秋田県としても重要な事として考えられている現在、秋田県歯科医療専門学校は、介護員の初任者資格も得られる事等、衛生士としては、医療、介護、専門の歯科方面で活躍できる事等健康を考える上では、とても重要で切実な事です。

一生自分の歯で、美味しい食事が出来ることは、幸せな事、口から食べられることは健康で長生きできる事につながります。

私たち歯科衛生士は、一生の仕事です。

皆様の健康と秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科の更なる発展を同窓会（秋路会）として切に願うものです。

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年

記念講演

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 創立50周年記念講演

日 時 平成30年9月15日(土)
会 場 さきがけホール 多目的ホール
講 師 歯科衛生士 安生朝子氏
演 題 「安生朝子の考え方2018」
— 歯科衛生士の過去・現在・未来予想図 —

創立 50 周年記念事業の第一弾として記念講演を開催しました。

講師にお迎えした歯科衛生士の安生朝子先生には多忙な中、スケジュールを調整していただき開催の運びとなりました。

学生 106 名と、当日記念講演の前に行ないました宣誓式にご出席いただいた御来賓、役員、講師、保護者を含めて 125 名が参加しました。

数多くの講演やセミナー講師として業界では、「カリスマ歯科衛生士」と言われる安生朝子先生のご講演ということもあり、どのようなお話しが飛び出すのか学生はもとより、先生のご活躍をよく知っている私たち職員も大変楽しみにしておりました。

歯科衛生士の過去・現在・未来予想図というタイトル通り、自らの歯科衛生士としての人生を振り返りつつ、これから歯科衛生士として巣立っていく学生に対して歯科衛生士のあるべき姿をご自分の経験を交えて分かりやすくお話ししてくださいました。講演の中で問診からいろいろと想像する『想像力が大切』、『人が分からないことを説明することが大好き』と何事にも一生懸命であり、全てにおいて妥協はしないなどの生活信条を語る先生のお話しに感銘を受けました。

また、『床に患者様の耳が一番近い』、物を落とした時の音やフットペダルを踏む音にも配慮するという細やかな心遣いを感じるお話もありました。

講演終了後は学生からの多くの質問に丁寧にお応えいただきました。

最後に在校生を代表して3年生の榊原伶奈より『「ただ話すことは誰にでもできる。患者様が分かったと思ってくれた時、初めて説明したと言える」といった話が印象に残った。理解してもらうためには、説明する私達が基礎から

しっかり理解し、自信を持って話すことが必要だと改めて感じた。幅広い年代の方と接する医療人として、日々進歩する医療に対応出来るように就職後も学び続けたいと思う。そして、たくさんいる患者様の中でその人にあった説明、指導ができる歯科衛生士になれるように頑張りたい。』と御礼の言葉が述べられました。

今回の講演により安生先生から、これから歯科衛生士となる学生には力強くも優しいエールをいただき、私達は、初心に帰って先生のお話を聞くことができました。

記念講演の開催にあたり、ご尽力いただきました方々に心より感謝いたします。

「秋歯会報 No.263」より
(歯科衛生士科 吉田律子)



秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年

記念式典



御来賓御芳名

(順 不 同)

自由民主党幹事長代理 衆議院議員

金 田 勝 年 様

衆議院議員

御法川 信 英 様

衆議院議員

富 樫 博 之 様

参議院議員

石 井 浩 郎 様

参議院議員

中 泉 松 司 様

秋田県副知事

堀 井 啓 一 様

秋田市長

穂 積 志 様

秋田県議会副議長

竹 下 博 英 様

秋田県議会議員

北 林 康 司 様

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会理事長

眞 木 吉 信 様

秋田県健康福祉部健康づくり推進課課長

畠 山 賢 也 様

秋田県健康福祉部健康づくり推進課技師

田 所 大 典 様

一般社団法人秋田県歯科技工士会会長

今 野 悟 様

一般社団法人秋田県歯科衛生士会会長

甫 仮 貴 子 様

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科
同窓会秋路会会長

古 谷 博 子 様

表彰者御芳名

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 創立50周年記念功労者表彰

(敬称略)

【30年以上功労者】

伊藤 靖子 太田 晃 大淵 義孝 酒樹 徳悦 白根 宏二
玉木 修 豊間 隆

【15年以上功労者】

有明 徹 石田 達郎 石塚 永幸 泉谷 百穂 今井 克幸
大滝 和枝 奥山 毅 小野 晃嗣 海塩 秀男 柏木 喜広
木村 寛 後藤 英盛 齊藤 桂 齊藤 義一 佐々木嘉一
佐々木 健 佐藤 暢也 佐藤 浩幸 佐藤 了子 菅原 慶勇
高橋 弘 竹中 一哉 土橋 亨 野中 咲 袴田 市郎
平塚 新 福田 稔 船木 聖己 三浦 吉貴 南浦 公夫
最上 伸司 山内 積 若狭 隆

秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 創立50周年記念感謝状

(敬称略)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科同窓会 秋露会

秋田県歯科医療専門学校 歯科衛生士科創立50周年記念

一般社団法人秋田県歯科医師会立
秋田県歯科医療専門学校

秋田県歯科医療専門学校 歯科衛生士科創立 50 周年記念 「本校 50 年のあゆみ」

創立 50 周年記念式典に於いて、本校 50 年のあゆみを秋田県歯科医師会鈴木文登専務理事より発表いただいた。そのスライド内容を掲載する。

初代秋田県歯科衛生士学院

(中通の旧歯科医師会館内)
昭和43年4月



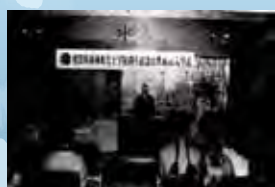
昭和 23 年 (1948 年)、歯科衛生士法の制定。
昭和 30 年 (1955 年)、歯科衛生士の業務に歯科診療補助が追加となる。

歯科衛生士法の制定から遅れること 20 年、昭和 43 年 4 月、中通の旧秋田県歯科医師会館内に秋田県歯科衛生士学院 (1 年制課程) が設立された。

秋田県歯科医師会館は山内矯正歯科の向かい。

秋田県歯科衛生士学院設立 及び第 1 期生入学式

昭和43年4月14日 (32名入学)



入学式会長挨拶

於アキタニューグランドホテル
創立記念式典および入学式挙行



第 1 期生入学試験

定員 20 名に対し 56 名受験
倍率 2.8 倍 合格者 32 名

昭和 43 年 4 月 14 日、秋田県歯科衛生士学院創立記念式典並びに第 1 期生の入学式を挙行。

第 1 期生入学試験においては、定員 20 名に対し 56 名が受験、32 名が合格し倍率は 2.8 倍であった。

歴代校長

初代学院長

昭和43年4月1日～
昭和54年3月31日



2代学院長

昭和54年4月1日～
昭和60年3月31日



3代学院長

昭和60年4月1日～
昭和62年3月31日



歴代校長

左から

初代学院長 稲葉 宏 氏

2代学院長 遠藤 一秋 氏

3代学院長 有明 次郎 氏

昭和の実習風景

左：昭和43年度（第1期生）
右：昭和45年度（第3期生）



昭和47年度（第5期生）



昭和51年度（第9期生）



昭和の実習風景。

昭和 54 年度より身体障害者巡回臨床実習（現在の社会福祉施設歯科巡回臨床実習）が開始された。

秋田県歯科衛生士学院第 1 期生卒業式

昭和44年3月15日（31名卒業）



昭和 44 年 3 月 15 日、秋田県歯科衛生士学院第 1 期生卒業式を挙行。31 名卒業。

2代目秋田県歯科衛生士学院

（山王の旧歯科医師会館2階に移転）

昭和45年4月

学院長室兼応接室



歯科口腔センター



玄関ホール・受付



技工実習室



昭和 45 年 4 月、秋田市山王 2 丁目に新築された秋田県歯科医師会館内 2 階に新校舎竣工・移転。

技工実習室を併設しており将来的に技工士科の開校も視野に入れていたと思われる。

昭和 45 年 6 月 14 日、秋田県歯科衛生士学院及び秋田県歯科医師会館新築落成式・記念式典を挙行。

秋田県歯科技工専門学校開校式 及び第1期生入学式 秋田県歯科衛生士学院第9期生入学式 昭和51年4月3日

第1期生26名入学



第9期生40名入学



昭和 51 年 4 月 3 日、秋田県歯科技工専門学校開校式及び第 1 期生入学式を挙行。26 名が入学。同日、秋田県歯科衛生士学院第 9 期生入学式を挙行。40 名が入学。

技工実習風景 (昭和59年～60年)



昭和の技工実習風景。

昭和52年10月、学校行事の一環として第1回歯科衛生士学院・歯科技工士学校合同運動会が開催された。

秋田県歯科技工専門学校第1期生卒業式 昭和53年3月25日 (26名卒業)



昭和53年3月25日、秋田県歯科技工専門学校第1期生卒業式を挙行。26名全員が卒業。
同日、秋田県歯科衛生士学院第10期生卒業式が挙行され、40名が卒業。

3代目秋田県歯科衛生士学院

(八橋に移転)

昭和59年3月



昭和59年3月、秋田市八橋（現在地）に校舎を新築移転。

昭和59年5月20日、秋田県歯科衛生士学院竣工式を挙行。

昭和59年4月1日より2年制課程に移行 秋田県歯科衛生士学院第17期生入学式

昭和59年4月7日 (50名入学)



昭和59年4月1日、私立学校秋田県歯科衛生士学院の収容定員に係わる学則の変更について学校教育法第4条の規定により施行。これにより2年制課程となる。

昭和59年4月7日、秋田県歯科衛生士学院第17期生入学式を挙行。50名が入学。

同日、秋田県歯科技工士学校第9期生入学式を挙行。17名が入学。

2年制課程最初の卒業生(第17期生)

昭和61年3月15日(50名卒業)



昭和61年3月15日、秋田県歯科衛生士学院第17期生卒業式を挙行。

2年制課程に最初に入學した50名全員が卒業。同日、秋田県歯科技工士学校第9期生卒業式を挙行。16名が卒業。

歴代校長

4代学院長

昭和62年4月1日～
平成5年3月31日



5代学院長(校長)

平成5年4月1日～
平成15年3月31日



6代校長

平成15年4月1日～
平成18年3月31日



歴代校長

左から

4代学院長 遠藤 一秋 氏

5代学院長(校長) 豊間 隆 氏

6代校長 鎌田 英伸 氏

初めて戴帽式を挙行

平成8年5月11日

歯科衛生士科第28期生47名



平成8年5月11日、初めての戴帽式(現在の宣誓式)を挙行。第28期生47名。

平成29年度 宣誓式

平成29年9月9日

歯科衛生士科第49期生42名



於：秋田県歯科医師会館

現在の宣誓式の様子。ナイチンゲール像より戴灯し、「誓いの言葉」を唱和。

- 一、身だしなみを整え、医療人にふさわしい言動を心掛けます。
- 一、さわやかな挨拶と返事、優しい笑顔を心掛け、思い遣りの心で患者さんに接します。
- 一、指導者の指示に従い、落ち着いた行動を心掛けます。
- 一、実習施設での規則を守り、実習で知り得た秘密は決して他に漏らしません。
- 一、自分の体調管理に留意し、実りある実習になるよう心掛けます。

秋田県歯科医療専門学校設立記念式典 平成9年度秋田県歯科医療専門学校入学式 (歯科衛生士科・歯科技工士科を併設) 平成9年4月12日

歯科衛生士科第30期生45名入学

歯科技工士科第22期生20名入学



於：秋田市文化会館

平成9年4月1日、秋田県歯科衛生士学院と秋田県歯科技工士学校を統合し、秋田県歯科医療専門学校と校名を改称。

歯科衛生士科と歯科技工士科を併設。

平成9年4月12日、秋田県歯科医療専門学校入学式を挙行政。

歯科衛生士科第30期生45名入学。

歯科技工士科第22期生20名入学。

平成12年4月1日、訪問介護員（ホームヘルパー）2級課程（現在の介護職員初任者研修）を導入。

秋田県歯科医療専門学校設立記念講演・祝賀会 平成9年4月12日



平成9年4月12日、秋田県歯科医療専門学校設立記念式典・講演・祝賀会を挙行政。

歴代校長

7代校長

平成18年4月1日～
平成23年3月31日



小松 雅治 氏

8代校長

平成23年4月1日～
平成23年5月31日



藤原 元幸 氏

9代校長

平成23年6月1日～
平成26年10月31日



荒川 恭嗣 氏

歴代校長

左から

7代校長 小松 雅治 氏

8代校長 藤原 元幸 氏

9代校長 荒川 恭嗣 氏

歯科技工士科第31期生卒業証書授与式 平成20年3月8日

歯科技工士科最後の卒業生6名



秋田県歯科医療専門学校歯科技工士科第31期生卒業証書授与式 平成20年3月8日

平成20年3月8日、秋田県歯科医療専門学校卒業証書授与式を挙行政。

歯科衛生士科第39期生49名卒業。

歯科技工士科第31期生6名卒業。

平成20年3月31日、歯科技工士科を閉科。

歯科衛生士科が3年制課程となる 第41期生 入学式 平成20年4月4日

歯科衛生士科第41期生41名入学



於：秋田県生涯学習センター

平成 17 年 4 月 1 日、歯科衛生士学校養成所指定規則が一部改正され、平成 22 年 4 月 1 日までにすべての養成機関は 3 年制課程へ移行することとされた。

本校では、平成 20 年 4 月 1 日より 3 年制課程へ移行。

平成 20 年 4 月 4 日、秋田県歯科医療専門学校入学式を挙行。

第 41 期生 41 名入学。

平成 21 年度より、社会人入学試験を導入。

第41期生 卒業証書授与式 平成23年3月26日

3年制課程最初の卒業生41名



平成 23 年 3 月 26 日、秋田県歯科医療専門学校卒業証書授与式を挙行。

3 年制課程最初の卒業生となる第 41 期生 41 名が卒業。

学生募集ポスター

平成12年度版



平成24年度版



学生募集ポスター

以前はシンプルなデザインが続いていた。

平成25年度版



平成31年度版



学生募集ポスター

現在は、歯科衛生士をイメージしたモデルを大きく掲載し、明るくカラフルで目を引くデザインになっている。

平成23年度 研修旅行 I N 韓国



平成 23 年 10 月 10 ～ 13 日、研修旅行。
韓国の東南保健大学校を訪問した際、記念写真。
同校は 3 年制の歯科衛生士科、歯科技工士科、
食品加工科、環境管理科等を併設した保健部門
の専門大学。

歴代校長

10代校長

平成26年10月1日～
平成27年3月31日



佐藤 金彦氏

11代校長

平成27年4月1日～
現在



星野 滋氏

歴代校長

左から

10 代校長 佐藤 金彦 氏

11 代校長 星野 滋 氏（現在）

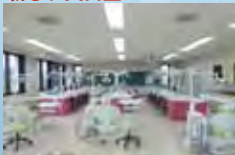
実習室改修(実習機・実習用マネキンの入替)

平成27年8月10日完成

以前の实習室



新しい実習室



平成 27 年 8 月、実習室を改修。最新のユニッ
トやモニター付き実習用マネキンを導入。
左は昭和 59 年の新築移転から 30 年以上も使
用していた。

現在の講義・実習風景



現在の講義・実習風景

大淵教務部長の講義（左上）や実習室で校内実
習に励む様子（右上、左下）。

平成 21 年度より、保育所（園）を訪問し臨地
実習を行っている（右下）。

学校行事

球技大会



課外活動



現在の学校行事の様子。
球技大会や課外活動を開催。スポーツやレクリエーションを通し学生同士親睦を深めることができる。

第50期生 入学式 平成29年4月6日



於：秋田県生涯学習センター

平成 29 年 4 月 6 日、秋田県歯科医療専門学校入学式を挙行。第 50 期生 41 名が入学。

第48期生 卒業証書授与式 平成30年3月10日



於 秋田市にぎわい交流館AU

平成 30 年 3 月 10 日、秋田県歯科医療専門学校卒業証書授与式を挙行。第 48 期生 39 名が卒業。

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 創立50周年記念式典



本日はご臨席をいただきありがとうございました

平成 30 年 11 月 18 日、秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立 50 周年記念式典を挙行。

記念式典スナップ



受 付



開式の辞を述べる県歯梅田正己副会長



式辞を述べる星野滋校長



告辞を述べる県歯藤原元幸会長



祝辞を述べる富樫博之衆議院議員



祝辞を述べる中泉松司参議院議員



祝辞を述べる堀井啓一秋田県副知事



祝辞を述べる福田徳行秋田市保健所次長（穂積志秋田市長の代読）



ご来賓の方々



県歯鈴木文登専務理事による本校50年のあゆみ



同窓会秋麓会より寄贈 古谷博子同窓会会長より目録の贈呈



功労賞を受賞された伊藤靖子先生



功労賞を受賞された太田晃先生



功労賞を受賞された大淵義孝先生



功労賞を受賞された白根宏二先生



功労賞を受賞された豊間隆先生



歯科衛生士教育に30年以上ご貢献いただいた先生



歯科衛生士教育に15年以上ご貢献いただいた先生



15年以上ご貢献いただいた先生方を代表して
表彰された佐々木嘉一先生



受賞者を代表して挨拶をする豊間隆先生



同窓会秋路会へ感謝状が藤原会長より授与された



式典の様子



閉式の辞を述べる県歯守口修副会長



式典の司会を担当した菊地広美教務



秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年

記念祝賀会

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 創立50周年記念祝賀会

日 時 平成30年11月18日(日)午後12時30分
場 所 秋田キャッスルホテル4階「矢留の間」

次 第

1. 開 会 の 辞 —— 秋田県歯科医師会 常務理事 杉 田 達 夫
秋田県歯科医療専門学校 副校長
2. 校 長 挨 拶 —— 秋田県歯科医療専門学校 校 長 星 野 滋
3. 会 長 挨 拶 —— 秋田県歯科医師会 会 長 藤 原 元 幸
4. 来 賓 祝 辞 —— 全国歯科衛生士教育協議会 理事長 眞 木 吉 信 様
5. 乾 杯 —— 秋田県歯科医師会 副会長 佐 藤 金 彦
6. 祝 宴
7. 中 締 め —— 秋田県歯科医療専門学校 教務部長 大 淵 義 孝

記念祝賀会スナップ



開会の辞を述べる杉田達夫副校長（県歯常務理事）



挨拶をする星野滋校長



挨拶をする県歯藤原元幸会長



祝辞を述べる全国歯科衛生士教育協議会眞木吉信理事長



乾杯のご発声をされる県歯佐藤金彦副会長



乾 杯



祝 宴



祝 宴



祝 宴



中締めをされた大淵義孝教務部長



祝賀会の司会を担当した菅原由紀子教務



同窓会秋蒨会より贈られたお花

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年

記念寄稿文

卒業生

50周年に寄せて

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科 同窓会秋路会 元会長

第4期生 一関 耐子(旧姓 遠藤)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立 50 周年おめでとうございます。

私は平成 9 年～平成 23 年まで、非常勤教務として、お世話になりました。主要三教科の歯科診療補助・歯科予防処置・保健指導の実習等がおもな仕事でした。歯科衛生士学院の 4 期卒業（一年制）の私には授業や実習内容の変化や多さに戸惑いましたが、学生達と机を並べ再度基本を学び、歯牙スケッチや歯型彫刻等を担当させていただきました。しかし私は教務の中では一番の年輩…学生達は我が子と同年代…時には母になってしまい、強い口調で話してしまい後悔し、反省させられることもありました。

春の課外活動にはじまり、秋の運動会（後に球技大会）国家試験対策、最後の謝恩会など学生達と共に学び、色々な行事に参加できたことが、今は楽しい思い出になっています。

また活動休止していた衛生士学校の同窓会である「秋路会」を鎌田元校長の依頼により平成 17 年に新たに立ち上げ、会長に就くことになりました。学校の様子を知らせる会報を発行するなど、少しずつ動き始めました。

歯科衛生士修業年限も 3 年以上とする教育に移行され、高齢者歯科などの内容が含まれ新たな歯科保健医療のニーズの対応が必須となり、ホームヘルパー 2 級の取得が含まれたカリキュラムとなりました。

先日、様変わりした学校内の充実した設備（ユニット・マネキン実習の机モニター付）等に、驚いて帰ってきました。これからは、臨床・介護・福祉の各職場で、歯科衛生士の活躍が期待される時代です。諸先生、教務の方々にご苦勞をおかけしますが、よろしくお願いし、今後、ますます秋田県歯科医療専門学校が、発展されますことを、お祈りいたしております。



魅力ある専門職としてさらなる発展に期待

秋田県歯科衛生士会 元会長

第6期生 川村 孝子(旧姓 堀井)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が創立 50 周年を迎えられたこと心よりお祝い申し上げます。

歯科衛生士の業務は、幾度かの法律改正に伴い、歯牙及び口腔の疾患の予防処置、歯科診療の補助および歯科保健指導の三大業務を柱として高齢者や障がい者への訪問歯科診療、咀嚼が困難な方への口腔ケアの関わり等と、保健・医療・福祉の現場へと拡大されてきました。歯科衛生士の有用性とライフワークが確立されてきたことを大変嬉しく思うとともに、これまで本校の充実と発展にご尽力いただきました教職員の皆様をはじめとする関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

私は、本校の第 6 期生として学び、昭和 49 年に歯科衛生士になりました。それから 44 年が経ちました。子育てと親の介護で現場を離れたこともありましたが、歯科衛生士会に所属して、その時々学ばねばならないことをキャッチし研鑽を重ねてまいりました。

現在は、臨床での活動の他に、介護予防事業（口腔機能向上）を中心とした地域歯科保健活動に関わっています。臨床現場では、メンテナンスに通い続けてくださる患者さんと長く関わることができました。定期的に検査をして評価しながら患者さんの口腔内の変化を資料で追いかけることができたことで、口腔内をみる目、予測する目を養うことができたと思います。私にとってはその経験が、現在多職種連携で実施される口腔機能向上の取り組み等の地域歯科保健活動の基礎となっております。

患者さんや、地域の皆様方と真心で接する中で、口腔内の困りごとが解決されて、「ご飯が美味しくなったのよ」、「心が軽くなったわ」等という声を聞くことが沢山あります。「ここに来てよかった」と喜んでくださって元気になっていく姿を拝見した時、私は、この仕事をしていてよかったなと思います。

平成 17 年から、歯科衛生士養成所指定規則の改正による 3 年制の教育が始まりました。同時に日本歯科衛生士会では、歯科衛生士の教育年限延長に伴う専門研修Ⅱ「特定コース」を開催しました。平成 20 年には、秋田県でもこの「特定コース研修会」を県歯科衛生士会長として開催することができました。その時に講師の先生から、「歯科衛生士さんの職業をさらに発展させていくために、自分たちのしている仕事についてまとめ、広く発表してエビデンスを作っていく時ですね。」と言ってもらいました。今でも、その言葉が耳を離れません。私もそう思います。

平成 18 年度より全国各地域で歯科衛生士を中心に多職種連携で、二次予防対象者に介護予防を目的とした運動器の機能向上プログラムや口腔機能向上プログラムが実施されるようになりました。この事業に関わった私たち歯科衛生士等は、これら 2 つのプログラムの複合効果を検証しようと考えました。そこで国立長寿医療研究センターの先生方をお願いして、秋田県内 10 地区の介護予防事業口腔機能向上プログラムにおける事前事後のアセスメントデータを分析していただきました。口腔機能向上と運動器の機能向上を組み合わせることで、咬合力の改善が認められ、咀嚼機能の向上が示唆されました。また、生活意欲の高揚がはかられ積極的な社会参加が認められ、さらに、低栄養予防が認められました。この研究の結果を口腔衛生学会や歯科衛生学会、公衆衛生学会などで広く報告させていただきました。

歯科衛生研究の積み重ねは、自分たちが実施している歯科衛生活動に対するエビデンスを作り出し、さらには歯科衛生士の職業の発展に繋がっていくと思います。

若い歯科衛生士の皆様方の中には、いつまで歯科衛生士を続けられるかなと方向性を模索している方もいらっしゃると思います。「今を頑張る」積み重ねが気づいた時に大きな力となっているのではないかなと思います。歯科衛生士の職業が魅力ある職業としてさらなる発展ができるようご努力くださるようお願いいたします。

結びに、秋田県歯科医療専門学校がこれからも地域の中でますます充実・発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

記念誌発刊に寄せて

秋田県歯科衛生士会 元会長

第21期生 福司 郁子(旧姓 角戸)

創立50周年おめでとうございます。母校がこの喜ばしい歴史を迎えられたことを大変うれしく思います。また、これまでご指導して下さった諸先生方はじめ、関係者の皆様方には、そのご厚意に対して改めて敬意と感謝を申し上げます。

「人の役に立つ仕事がしたい」こんな思いだけで、恥ずかしながら、歯科衛生士がどんな仕事をするのかよく分からないまま入学しました。当時「歯科衛生士」という職業は、まだまだ知名度も認知度も低く、授業で歯科衛生士の仕事や役割を学ぶことで改めてこの仕事に魅力を感じ、歯科衛生士として働く将来に希望と期待を持っていたように思い出されます。

学生生活で思い出すのは、楽しかった学校行事や、課題をクリアするのに大変だった授業のことです。

興味はあるものの、覚えるのに苦労した薬の名前、思った以上に難儀だった100%歯磨き、口腔外科の授業で見た手術の映像に具合が悪くなったこと、こんなことで自分は歯科衛生士として仕事ができるのだろうか、不安に思った事もありました。

学校行事の中で一番の思い出は北海道の研修旅行でした。学校での毎日とは違う環境で、同級生との絆を深める貴重な体験をしたことを今でも思い出します。

卒業してすぐの頃は、学校で習った基礎は役立ちましたが、医療の現場の厳しさと、先輩歯科衛生士のスキルの高さに圧倒されながら、常に学ぶことの大切さを教わりました。

当時の私は、歯科医師と診療の第一線で患者さんに信頼をしてもらえる歯科衛生士を目指していましたが、勤務していた病院の事業で公衆衛生活動に携わる機会があり、診療の現場以外の歯科衛生士の仕事に興味を持ち、やりがいを感じ、いつかこのような仕事に携わりたいという気持ちを持つようになっていました。

あれから十数年、現在は保健所に勤務して歯科保健事業や保健衛生行政に携わっています。治療の最先端の場と異なり、広く治療の大切さと予防の必要性や全身と口の関わりを、ライフステージに合わせて伝える役割をしています。

念願の仕事ができて毎日充実している反面、伝えることの難しさに奮闘しております。

また、実習生の受け入れ事業もあり、ほんの少し母校を近くに感じております。

卒業生の一人として、学生さんには歯科衛生士として、知識を身に着けること、その知識をわかりやすく伝える能力を持つこと、技術を磨くこと、そして仕事に誇りを持ち長く活躍することを一番に願っています。

これからの後輩歯科衛生士の活躍と、秋田県歯科医療専門学校の益々の発展を祈り結びの言葉とさせていただきます。

日々是精進

第30期生 伊東 里美 (旧姓 小西)

歯科医療専門学校創立50周年おめでとうございます。これまで学校運営に携わって下さいました諸先生方に深い敬意とお喜びを申し上げます。今後も地域歯科医療発展と未来の歯科衛生士の育成にご尽力をお願い申し上げます。

私が卒業して、20年です。この年月を経て感じる事は、歯科衛生士は面白い!です。診療補助、保健指導、予防処置どれをとっても本当に奥が深く、今も学びの日々です。患者さんの個性がある為、画一性は通用しません。人と人の信頼関係が必要だからこそ、大変だけれど面白いのかもしれません。私の場合は、結婚・出産・育児などのライフスタイルに合わせてもっと学びたいと思う事もどんどん変化していきました。

新人の頃はデンタルや、バキュームなど基本的な診療補助が上手く出来ずに毎日が精一杯でした。先輩から、「歯科衛生士の名札を付けている以上は患者さんにとっては新人もベテランも関係ないのだからプロとして仕事をしなければならない」とガツンと一発愛のムチ。どこか甘えていた自分が、資格の責任を重く感じた時期でした。

出産し母になってからは、子供たちの予防に特に興味を持つようになりました。母として我が子をカリエスから守りたかったので、同じ気持ちで来院されるお子さんや親御さんの保健指導や予防処置は常に伝えたい気持ちでいっぱいでした。仕上げ磨きを嫌がるお子さんがちょっとしたアドバイスで上手に出来るようになりましたと喜んでいたお母さん、カリエスフリーのまま成長し毎回定期検診を楽しみにして来院してくれる子供たち、歯科衛生士としての喜びを強く感じました。

最近、ご高齢の患者さんの診療に関わらせていただく機会が多いです。同時期に私の祖母が施設に入所したのをきっかけに高齢者の口腔ケアに興味を持つようになりました。人が食べることは生きる事で、おいしく食べることは人生を豊かにする事だと実感しました。

歯科医療は8020運動を推進し、歯を残すことから口腔機能の維持・向上に着目した新たな段階に入りました。多職種連携による「食べる機能の支援」も盛んに行われています。

これから私たち歯科衛生士が益々お役に立てる場が広がっていく時代です。

今回、寄稿させて頂くにあたり、改めて過去の自分を振り返り未来を考える良い機会を頂きました。在学中に学んだ事、共に学んだ仲間は今でも繋がっている宝です。これからも日々感謝し、成長していけるように精進していきます。

思いやり

第31期生 櫻田 恵里香

秋田県歯科医療専門学校創立50周年、誠におめでとうございます。長きにわたり歯科医療業界の発展に貢献され、優秀な人材育成と学校の歴史と伝統を築いてこられた諸先生方に深い敬意とお慶びを申し上げます。

9月某日、突然担当教務から寄稿文依頼のご連絡を頂き、驚きながらも、ふと忘れかけていた学生時代を思い出してみました。当時私は実家から離れ、1人暮らしを始めたばかりで、身の回りの事をしながら、アルバイトに学業にと毎日忙がしくも充実した日々を送っていました。普通高校出身の私は、専門科目と言うジャンルを学ぶのが初めてで、目に映るもの全てが新鮮で、日々新しい発見があり自分自身の見識や世界が広がってゆく事に喜びを感じていました。学校での授業も実習室での実習も特別大変だと思う事はほとんど無く、私はこのまま順風満帆に歯科衛生士の道を歩んでゆくのだと思っていました。

2年生になり、臨床実習が始まった途端、私の慢心は脆くも崩れ去り、実際の現場で巻き起こる様々な厳しさを知る事となりました。スケーリング1つとっても、実習室の模型の様には行きません。実際の患者さんには舌も頬粘膜もあり、唾液は出続け、バキュームをしながらのスケーリング。時に出血もあり、心が動揺している所に患者さんからの「痛い」の一言。もはやノックアウトです。

実習室の模型は「痛い」と言えません。早く綺麗にスケーリングできさえすれば良いと思っていたのです。そこに患者さんへの思いやり、相手の立場になって考える、施術すると言う歯科衛生士にとって一番大切な事が抜け落ちていたのです。臨床実習は、その一番大切な事を気づかせてくれた、半年間でした。

現在は、暫間被覆冠すら、ろくに作成できなかった私を育てて下さった院長の元で、歯科衛生士として働いています。日々患者さんとふれ合う中で、やはり大切にしているのは相手を思いやる、相手の気持ちを考えると言う事です。患者さんも十人十色。歯医者が怖い人、好きな人。口が開けづらい人、大きく開ける人。痛みに敏感な人、鈍感な人。その1人1人を思いやり、対応を考え、少しでもスムーズな治療ができる様に歯科医師と患者さんの架け橋的な存在になりたいと、日々邁進しております。そんな中で、患者さんからの「ありがとう」と言う感謝の言葉は、今の私の最大最強の原動力となっています。

これからの高齢化社会、私達歯科衛生士の担う役割は増々大きくなると感じています。訪問歯科診療などの在宅医療は、医師、看護師、介護士、ケアマネージャーなど様々な分野の方々との連携が必要となり他業種の方との意見交換や対応が不可欠となります。広い知識と協調性、何より人を思いやる心を持った歯科衛生士の育成にご尽力頂ける事を願いつつ、秋田県歯科医療専門学校の更なるご発展をお祈り申し上げます。

歯科衛生士になってみて

第32期生 佐藤 奈緒(旧姓 武田)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年おめでとうございます。

私はとにかく手に職をつけたかったので、高校生の時に歯科衛生士を目指そうと思いました。私の妹が、幼い頃に虫歯が原因で入院したことがきっかけです。そこで数々の専門学校がある中、実際に開業されている先生方の講義や実習が受けられる貴校を勧められ入学を決めました。

入学してからは、自分が思っていたより忙しく人生の中で一番勉強した時期だと思います。私は文章では覚えられなくて実習でようやく理解できるいわゆる体で覚えるタイプでした。一番の思い出は、グループで紙芝居を作ったことです。構成、脚本、絵、すべて自分達で考えて作りました。みんなで完成させた達成感は忘れられません。

歯科衛生士になって十八年目になろうとしています。年々歯科衛生士の仕事が面白くなっていて、秋田市の歯科医院で二年間、今の歯科医院では、十六年間勤務しています。出産した為、五年前からは午前だけのパート勤務になっていますが続けています。今の勤務先は三代続く歯科医院なので、患者さんの年齢も幅広いです。全身疾患や服用中の薬等でケアと治療にブレーキがかかってくることも少なくありません。なので患者さん一人一人のライフステージにあった治療を話し合いながら決めています。患者さんや歯科医師への話し方、物事の進め方など貴校の先生方に教わったことを基本にしています。子育て中なこともありセミナーや勉強会には、参加出来ていませんが志だけは高く持って仕事をしています。知識や技術はもちろんの事、それをさらに上回る人間性も大切だと思います。知識や技術があってもコミュニケーションが出来なければ役に立ちません。

これから五十年、百年先を目指して社会の変容に対応できる人材を育成し、送り出して下さいますよう期待しております。最後に貴校及び同窓会の益々の発展を心から祈念申し上げます。

歯科衛生士になって

第33期生 佐々木 愛子(旧姓 倉田)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立50周年おめでとうございます。

地域医療発展のために新設されてから永い月日の間ご指導くださいました諸先生方に深い敬意とお慶び申し上げます。

この学校に入りとにかく勉強、実習、そして国家試験に向けてのテスト、目まぐるしく過ごした2年間でした。実習でうまくいなくて悩んだ日もありました。でも登校日には同じような悩みを抱えながら登校してくる仲間や、それをやさしく聞いてアドバイスをくれる先生方に支えられながら私の中の思い出は笑顔が多く、懐かしく思い出されます。

そしてこの時の経験や授業で勉強していたことが実習でつながった喜びが、今の私の基盤を作ってくれました。

2度目の出産をきっかけに1度は離れた歯科でしたが、ほかの仕事をして、私はやっぱり歯科の仕事が好きなんだと改めて気づきました。そんな時縁があり今の歯科医院に入り、今は一般歯科の他に、障害者歯科や入院患者さんへの口腔ケアにも携わっています。歯科医院はたくさんありますが、まだまだ施設などへの歯科への関心や導入は足りないのかなと実感しています。秋田県は年々高齢化も進んでおり、もっと関心を持ってもらえたらと思いながら日々患者さんたちと向き合いながら仕事をしています。なかなか心を開いてくれない患者さんや、口をあけてくれない患者さんへの治療が難しく苦勞することもあります。治療や口腔ケアの最後に笑顔を見せてくれたり、施設の人やご家族から痛がらなくなった、食べれるようになったなど改善された話を聞くとうれしいです。

一般歯科と障害者歯科を通して「健康はお口から」、患者さんの健康を私が見落とさないようまだまだ勉強が必要だなと感じています。

私は歯科衛生士という仕事が好きです。好きなことを仕事にできて恵まれているなと思います。これから卒業する後輩たちにもそんな風に感じ、社会で羽ばたいてほしいと思います。たくさんの衛生士を育ててくれた先生方ありがとうございます。更なる学校の発展をお祈りしております。

今後の歯科医療への期待と私の15年

第34期生 澤石 千寿香(旧姓 齊藤)

この度は、創立50周年おめでとうございます。

今回の依頼を受けるにあたり、自分自身を振り返ったときに、「卒業してから15年も経つのだなあ」と、今回改めて、時間の流れの速さを実感しています。

私が歯科衛生士を志したのは、一度社会人として働いてからでしたので、24歳の時でした。学校に入ったのは良いものの、周りの同級生を見渡せば、高校を卒業したばかりの子達がほとんどで、自分の周りの友人達とはといえば、少しずつ仕事をこなせるようになってきている時期でした。そんな中、1人学生をしている自分に、戸惑い焦ったりもしました。

その当時は、全身疾患と口腔内環境との関わりも、今ほど周知されていなかったこともあり、看護師の友人に「他人の口の中を見て何が面白いの?」と言われ、悔しい思いをしたりもしました。

こうして一念発起して通った学校で、取得した歯科衛生士という資格ですが、15年という月日の中では、正直「もう歯科衛生士はいいかなあ」と感じた時もありましたし、実際歯科医療から離れていた時期もあります。

それでも今現在、歯科医療に携わっているのは、周りの友人や家族のおかげだと感じています。

高齢化社会を迎えつつある昨今、歯科衛生士が活躍出来るであろう場合は、広がることと思いますが、他業種との関係もこれまで以上に求められる事も間違いありません。しかしながら実際には、まだまだ連携不足と言わざるを得ない状態です。

2024年には50歳以上の人口が5割を超え、平成28年度の歯科疾患実態調査では、8020の達成率は51.2%と推測されているように、今後は多くの歯牙を保有する高齢者が増えます。そんな時代だからこそ、口腔内から健康を支える歯科衛生士という職業は、医療や介護といった現場の中で、ますます重要になってゆくことでしょう。自身自身もその一端を担っていけるように、今後も努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、これからも数多くの歯科衛生士が社会に羽ばたき、多方面で活躍出来るように、秋田県歯科医療専門学校への更なる御発展を祈念申し上げます。

お祝いのことば

第35期生 野村 今日子(旧姓 赤田)

歯科衛生士学校創立50周年おめでとうございます。この永い年月の間、学校の歴史と伝統の礎を築いてこられ、ご指導下さいました諸先生方に深い敬意とお慶びを申し上げます。

私は小さい頃から医療系の仕事に興味があり、中でも国家資格で女性でも生涯に渡って働くことのできる専門職である歯科衛生士は、憧れの職業でした。

学校生活では、全員が「国家試験合格」を目標として日々励まし合いながら頑張ってきました。とても大変な毎日でしたが、努力して掴み取った資格は特別なものでした。今は歯科医療から離れて子育てに専念している私ですが、国家資格があることは自信を持たせてくれています。言われる前に患者さんの変化に気づくこと、きれいにスピーディーにすること、どうすれば治療がスムーズにできるか考えながら行動すること。学校や職場で教わってきたことは、子育てする上でも、家事をする上でも、大変役立っています。

学生時代の思い出ですが、国家試験の日がわたしの二十歳の誕生日でした。なんと友達が秋田からケーキを隠し持ってきてくれていて、夜お祝いをしてくれました。試験前で緊張していた私でしたが、その暖かさに緊張がほぐれ、力を発揮することができました。この学校で苦楽を共にすることで、一生の友達ができました。ちなみに結婚式の余興では歯磨き体操をしてくれました。よい思い出です。

歯科衛生士として自分の得た技術や知識が患者さんの健康に役立ち、喜んでいただけたとき本当に嬉しいものです。歯科衛生士は子供から御年寄まで、人の人生に寄り添う仕事だと思います。一生を通して口から美味しいものが食べられるように、たくさんの人の健康を守る一翼を担う大切なお仕事です。多くの方が抱いている「歯医者さんはこわい」というイメージを「楽しみ」「また行きたい」にかえられるよう、多くの学生さんに志を持って社会にはばたかれる事を祈っています。

50周年に寄せて

第36期生 金森 瑠衣(旧姓 佐藤)

秋田県歯科医療専門学校創立 50 周年まことにとおめでとうございます。私は、36 期生です。その当時は、2 年で卒業でしたので「あっ」という間に社会に巣立ったように思います。近年の歯科医療は、治療はもとより、インプラント、歯科矯正、審美歯科、メンテナンスなど多種多様な治療が求められ、歯科衛生士にもより質の高いアシストが必要となっています。歯科衛生士としての基礎を学びしっかりご指導下さった諸先生方には、改めて感謝申し上げます。

私は、小学校 3 年生から歯科矯正に通うことになりました。歯科通院は、とても楽しみでした。それは、歯科医院独特の匂いや、ユニットテーブルに置いてあるミラーやピンセットを見るだけで、触りたくて仕方ありませんでした。矯正したことで歯並びは良くなり、上顎前突は解消されました。小学校卒業まで続いた矯正治療でしたが、歯科に興味を持ち、将来は、絶対に歯科医院で働きたいと思うようになりました。

さて、歯科衛生士になりたいという夢は、少しもぶれることなく、秋田県歯科医療専門学校に希望通り入学できました。クラスメイトは、40 名くらいだったように思います。秋田県内はもとより県外出身の人もいました。クラスの雰囲気は、明るくなんでも話せる仲間と、いつでも気軽に質問したり、ご指導を仰いだりできる諸先生方に恵まれ楽しい 2 年間でした。しかし、成績はというと芳しくありませんでした。成績順に席が決められ、ほぼ前列をキープしていました。前列の顔触れはあまり変わることなく、理解出来ない所は、休み時間を利用し、お互いに教え合ったり、先生に質問に行ったりしていました。優しく丁寧に教えて下さった諸先生方には、心から感謝しております。更に歯型彫刻の作業では、愕然としてしまいました。器用だと自負していましたが、脆くもその思いは崩れ自信喪失の状態でした。本当に歯科衛生士になれるのかと不安がよぎった事もありましたが、無事国家試験に合格できました。

卒業後は、実習でご指導して下さいました歯科医院で夢であった歯科衛生士として働き始めました。院長先生はじめ、スタッフの皆と、コミュニケーションを図り、楽しい職場で毎日頑張っています。患者さんには、親しみやすく安心して通院ができるように日々心掛けています。いつまでも、口から美味しく食べられるように、患者さんに寄り添い訴えを丁寧に聞いてくれる院長先生のアシスタントとして、日々学んでいます。歯科技術の進歩は目覚しく、私たち歯科衛生士も、更なる向上を目指し、研修に参加したり、院内での勉強会を行ったりして研鑽に努めています。

また、院長先生と共に小学校に出向き、歯科検診や歯磨き指導をすることがあります。その度に、自分が小学生だった頃を思い出して歯科衛生士として働いている今が、とても幸せだと痛感しています。

秋田県歯科衛生士学校での 2 年間は、自分の夢の実現の為に頑張った貴重な時間であり、人生の基礎を学ばせて頂いた学舎です。心より感謝申し上げますとともに、50 周年を祝し益々のご発展を心よりご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

学生時代の思い出

第 37 期生 中込 理加(旧姓 西村)

この度は、秋田県歯科医療専門学校が創立 50 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

在学していた頃を懐かしく思い巡らしてみると、厳しくも優しくご指導して下さった諸先生方、同じ目標に向かって切磋琢磨した同級生の顔や毎日通学した校舎が思い浮かびます。

入学してからは、講義や基礎実習についていけるように毎日必死でした。聞いたことのない専門用語を覚えたり、取り扱ったことのない歯科材料の実習をしたり歯科模型の制作やスケッチなど、特に私は器用な方ではないので何度もチェックを受けたり、実技試験では再試験が多く…。そんな私にもかかわらず熱心にご指導して下さいました諸先生方には、本当にお世話になり深く感謝しております。

1 日 1 日があっという間に過ぎさり、2 年目からは各医院に分かれての実習が始まりました。実際に患者さんと接したり、治療をしている先生や衛生士のアシストをし、とても緊張したのを覚えています。ライティングやバキューム操作のコツなど、空き時間に指導してもらいました。また実習を進めていくうえでの疑問や質問に熱心に答えていただいたり、歯学では経験できないことを経験、拝見させていただきました。訪問歯科診療の治療の様子や口腔ケアの手伝い、大学病院での口腔外科手術の様子や、実際に歯科材料の味を確かめてみる経験など今でも印象に残っています。その他にも初任者研修(旧ヘルパー 2 級)の実習もあり、老人ホームなどにも行かせていただきました。実習先の諸先生方や皆様にはお世話になりました。

毎日が実習とレポートで体力勝負。そして国家試験対策。挫けそうになった日もありましたが、友人達と励まし合いながら乗り越えられました。私一人きりでは、きっと乗り越えられなかったと思います。友人達にも感謝しております。

歯科衛生士の資格を手にしてからは秋田県で約 5 年、縁があって広島県で 2 年ほど歯科医療業務に携わりました。今は子育てに奮闘しておりますが、また患者さんの歯を長く使っていただくお手伝いと「ありがとう」と言っていただけのように努力していきたいと思っております。ここまで歩んでこれたのも、友人達や多くの方々のご支援、ご指導の賜物と心からお礼申し上げます。更なる秋田県歯科医療専門学校の発展を心からお祈り申し上げます。

『歯科衛生士』資格との出会い

第38期生 鎌田 沙智子(旧姓 小野)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立50周年おめでとうございます。ひとえに諸先生方、学校関係者の方々のご尽力の賜物であると考えます。第38期生の代表として、敬意を表し、お慶び申し上げます。

思い起こせば、学生の頃の私は失敗の連続でした。綿栓をありえない太さで作ってしまったこと。石膏や、オリジナル模型、何度となく戻され、提出したこと。今では、友達と笑って話せることですが、当時は、悲しく、悔しく、なにより、切なかったです。また、授業でならった内容も、臨床実習で経験し、初めて頭の中で繋がることも多く、技術、知識の成長になりました。学生の頃は、失敗から多くのことを学び、基礎作り、衛生士の意識作りにも大切な時間を過ごさせて頂きました。

早いもので卒業してから12年の月日が経ちました。私は今、リハビリ病院に併設している診療所で働いています。当然、認知症の方や、身体的に不自由な方も多く来院されます。指示が入りづらく、指をかまれたり、治療内容の理解や、協力を得ることが困難なケース。体制維持困難の方の治療の長く感じる。治療の終わりには、お互い疲労困憊なケースもあります。そのような中でも、患者様と笑いあったり、気持ちを共有しあったりできることに、やりがいを感じながら日々奮闘しております。人との繋がりで人生を豊かにしてくれる。衛生士になってよかったと思えるのです。

高齢化が進む中口腔環境の改善は、健康寿命をのばすためにも必須だと考えます。

その中で、口腔ケアに携わる衛生士の役割は、とても重要なものだと思うのです。歯科医療も様々な研究や技術により進歩しています。学校で学んだこと、培ってきたことが、土台となり、ここまで歩んでこれました。また、苦しみや悩みを理解し、相談しあえる仲間ができたことは、私の自信であり、誇りでもあります。ご指導してくださった先生方、支えてくださった方々に心よりお礼申し上げます。

これからも歯科衛生士の可能性を広げて頂けるよう、歯科医療専門学校の更なる発展を心より祈念申し上げます。

歯科衛生士になって

第39期生 堀井 佳織(旧姓 赤川)

歯科医療専門学校歯科衛生士科創立50周年おめでとうございます。半世紀という長い間、歯科衛生士を育てるためにご指導下さいました先生方に心から敬意とお慶びを申し上げます。

衛学50周年の知らせを聞いて、私が卒業してからもう11年も経ったのだなあ、月日が流れるのは早いなあとしみじみと感じております。私が在学していた頃、衛学はまだ2年課程でした。ここでの勉強をしっかりやるのが将来社会に出た時の自分を助けたいと思い、真面目に真剣に取り組まなければ、と考えながら入学したことを覚えています。学ぶことがたくさんある毎日に初めは不安と緊張だらけでした。特に臨床実習では、学生しか経験してこなかった私にとっては時に辛いこともありました。そんな中先生方からの励ましや友人と共感し合うことで乗り越えることができました。この時出会った友人たちは同じ職業ということもあり、今でも悩んだ時や苦しい時には相談し支えてもらったり、楽しい時間を共有したり、私にとってはかけがえのない人たちです。そんな友人たちに出会うことができた衛学には本当に感謝しております。

卒業してからは臨床実習でお世話になったひとつの医院に就職しました。そこでの実習は患者さんと関わることができるって楽しいな、歯科衛生士を目指してよかったなと思わせていただいた場所でした。院長先生はとても優しく勉強熱心な先生だったので私も様々な講習会に参加させていただきました。知識がつくとモチベーションが上がり、自信がつきます。メンテナンスで患者さんから「またお願いしたい」「とても気持ちよかった」と言われることが何より嬉しく、やりがいを感じておりました。また、院長先生の影響でスタッフみんなでマラソンもやりました。練習すればしただけ成果の出るマラソン。自分のペースでですがフルマラソンを走りきったこともとてもいい思い出になりました。

歯科衛生士の仕事は経験していくことが一番成長できる気がします。ですがなんの知識もなしにその舞台には立てません。学生時代コツコツ学んだことは就職した時にとても自信になりました。今は子育てのため現場を離れていますが、落ち着いたらまた歯科衛生士として働きたいと思っています。歯科衛生士は国家資格なので再就職する時も強みかなと思っています。今やコンビニよりも多いと言われている歯科医院。より多くの優秀な歯科衛生士が育ちますよう心から祈っております。

未来に向かって

第40期生 畠山 えり(旧姓 坂田)

歯科医療専門学校創立 50 周年おめでとうございます。校長先生はじめ諸先生方におかれましても、50 年という長く深い歴史に一言では語り尽くせないことと存じます。

卒業から早いもので 9 年弱が経ちました。私が専門学校に入学したのは今から 11 年前になります。当時、他県では三年制の専門学校に移行している中で二年制で歯科医療を学べる事と母親が歯科助手として働いていた事もあり入学したのを思い出します。実際入学してみると専門分野だけでなく、歯科とはほぼ関わりがないんじゃないかと思うような教科もあり理解するのに苦労しました。

学年が上がると専門分野の授業も増えていき臨床実習では歯科医院へ行き、実習をさせて頂きました。その当時は印象採得の時にトレーの選択や嘔吐反射の有無、頬粘膜の硬さなど患者さんによって全く違うので苦労しましたが、今となっては何であの時出来なかったのだろと思うようになりました。臨床実習で学んだ事は私の衛生士としての土台になっている事は確かで、あの時の気持ちを忘れずにこれからの衛生士としての人生をより良いものとして楽しみながら歩んでいきたいと思います。

最後になりますが私の勤務先である上司はよくこんな事を話しています。それは、口は命の入り口と出口であるという事です。命に関わる病気がクリーニングをする事により、たった何パーセントだけだとしてもその手助けになる仕事に携わる事ができて嬉しく思います。少子化が進み、秋田県では虫歯の罹患率が全国でもワーストというのはご存知かと思いますが、現在では幼稚園からフッ素洗口を推進しているという事で子供にとって強い歯を作る為の 1 つのアイテムとしてはいいのではないかと思います。その反面、フッ素塗布やフッ素洗口で子供が死に関わるのではないかと気にしている親御さんがいるのもよく目にします。フッ素に対しての恐怖心や不安に思われてる方にいかに納得し、安全だと言うことを認識してもらうには私達歯科衛生士や歯科医師による十分な説明が必要だと言うことと同時に、患者さんとの信頼関係やコミュニケーションも十分でなければ理解し難い事だと痛感しています。未来ある子供達が笑顔で元気に育ってもらうために私達歯科衛生士が出来ることは、ブラッシング指導やフッ素塗布、日々のお家でのブラッシングを頑張ってもらふ事だと思います。

その為にも歯科医療専門学校の更なる発展と数多くの歯科衛生士が社会に羽ばたく事をお祈りしています。

50周年に寄せて

第 41 期生 石塚 千聖(旧姓 齋藤)

秋田県歯科医療専門学校創立 50 周年おめでとうございます。半世紀という大きな節目を迎えられました事を心よりお祝い申し上げます。

貴校に入学した日は今でも鮮明に覚えています。日々学業に励み、技術の鍛錬に努め、貴校で出会った良き友人たちと支え合った 3 年間でした。専門的な学術の理解に苦しみ悩んでいる時や印象採得やセメント練和に失敗して落ち込んでいる時は、諸先生方からご指導をいただき、友人たちと励まし合いながら、困難を乗り越える事ができました。歴代の校長先生をはじめ諸先生方の熱心なご指導に深い敬意と改めてお慶び申し上げます。

私は、秋田市にある歯科医院に勤務しています。女性が働きやすい職場で、切磋琢磨し合える家族のようなスタッフと出会い、貴校で学んだ知識と技術を生かしながら更なる向上を目指し、日々診療に従事しております。歯石を取ってほしい、歯がボロボロで笑えない、咬めないから食事が楽しくない等、さまざまな悩みを抱える患者様が毎日来院されます。歯科衛生士として診療補助や予防処置、保健指導を行い、口腔内が健康になる様子、そして患者様がどんどん生き生きしていく様子を間近で見られる事、何より毎日沢山の方から「ありがとう」という感謝のお言葉と笑顔をいただける事が、この仕事の良さだと思います。私は、この仕事を誇りに思っています。

平成 28 年より女性活躍推進法が施行されました。日本では働く上で、男女格差がまだまだ大きく、女性管理職の割合が世界各国に比べ圧倒的に低い現状があります。妊娠、出産、子育てや介護のためにキャリアアップが難しく、退職してしまうことが原因の一つとして挙げられます。この法律により、女性が社会に進出しやすい、男女の格差を少しずつ解消し、女性が高い能力を発揮し活躍できる社会になりました。

また、リンダ・グラットン氏の著書『LIFE SHIFT』の中で、「人生 100 年時代」と提言しているように、人生 100 年が当たり前の時代となる時代が現実になろうとしています。健康寿命を延ばすためにも、痛い時に歯を削って治す従来の歯科ではなく、できる限り自分の歯を失わずに“一生涯自分の歯で噛む”為に、歯科予防処置や歯科保健指導といった予防歯科が重要な鍵になります。まさに、歯科衛生士はこれからの時代、日本が求める人材であり仕事です。女性が活躍できるライフワークと言えるでしょう。貴校には、歯科衛生士としての知識、技術は勿論、社会で活躍出来る様なところ豊かな人間育成を目指してほしいと思います。

貴校の 50 周年を新たな飛躍の出発点とし、更なる発展を心よりお祈り致します。

50周年に寄せて

第42期生 淡路 美由紀

秋田県歯科医療専門学校、創立50周年誠にありがとうございます。卒業・合格を果たし晴れて歯科の世界に身を置いて、早いもので6年もの月日が流れましたが、学生時代の輝きは色褪せる事なく、今にもあの頃に戻れてしまいそうな程鮮明に思い出されてしまいます。私は同級生や教務の方々にとっても恵まれていたため、学生時代は本当に毎日が楽しいものでした。入学当初はその圧巻の教科数に目を回してしまいそうでしたが、今まで知らなかった事を知る事が出来る事は嬉しい事でしたし、何より将来に直結している勉強にとってもやりがいを感じていました。実習の方もまた然り。恥ずかしながら、幼い頃は歯医者恐怖症を豪語していた私は極力歯科との関わりを避けていたので見る材料のほとんどが初めましての状態で、新しい事に挑戦する喜びは一入でした。それに例え躓いてしまっても友人と失敗談を言い合い、時にふざけ合って問題を解決していく行動の全てがただただ楽しく挫折感など一切感じられないものでした。毎日が楽しく充実した日々は私の人生一番の宝物です。

そんな順風満帆な学生時代、いわば船出でしたので社会の荒波は思いの他の大嵐であまりの落差に何度転覆しそうになったかしれません。この業界はきっと私には無理だったのだと挫折しそうになるたび学生時代の自分は如何に恵まれていたか、戻りたい気持ちを渴望したかしれませんが、そんな事が何かの解決になるわけもなく、諸先輩方の力をかりつつの試行錯誤の毎日が流れていきました。そんなどん底な私の心を救い上げて下さったのは、ある患者さんの一言でした。

「あなた達のおかげでいつも美味しく物が食べられて、いつまでも元気でいられるわ。ありがとう。」その言葉を言われた時涙は流すまいと思ひ必死で我慢しましたが、胸がいっぱいでこの道を選んだ事は間違いではなかったと強く思うことができました。これからも微力ながら患者さんのために精一杯尽くそうと決意したのです。いつまでも美味しく食べる事がどれ程難しい事が日々悪戦苦闘の毎日ではありますが、頼もしい仲間達が巣立たれる日を心待ちにしております。

創立50周年にあたって

第43期生 佐藤 美佳

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立50周年ありがとうございます。

早いもので卒業して5年が経ちました。今ふと振り返ってみても課外活動や球技大会など様々なイベントでの思い出がよみがえってきますが、私はその中でも臨床実習が1番印象深いです。校内で学ぶ講義や相互実習とは違い、限られた時間の中で迅速かつ正確さが求められる現場に慣れない環境の中で悪戦苦闘する日々でした。ですが、仲間に支えられ信頼できる友ができたことは私にとって生涯の宝物です。また、卒業後歯科衛生士として未熟な私は思うように仕事ができず大きな壁にぶちあたりました。その時、諸先生方にサポートしていただいたことで現在では良い環境のもとで患者さんに関わり歯科衛生士を続けられていることに大変感謝しております。

国家資格を取得し歯科のプロとして患者さんの変化していく状態に何をなすべきか考えたり時に命にかかわる重大な仕事をしている点など、難しい所もありますが患者さんの将来を担う仕事としてやりがいを感じたり、より責任感がうまれたように思います。この先もこの仕事に深く関わって日々まい進していきたいです。

日本は超高齢社会となり問題になってきたのは摂食・嚥下障害の患者さんの増加です。在宅医療・口腔ケア等もますます重要となりこれまで以上に歯科衛生士の役割は大きくなります。それと共に知識も求められてくると思います。専門学校での貴重な3年間、充実した良い環境で学び社会で貢献できる人材が多く育つことを願っております。そして歯科衛生士科の更なる飛躍を遂げられますよう心から祈念申し上げます。

創立50周年に寄せて

第44期生 志村 舞(旧姓 海老沢)

秋田県歯科医療専門学校創立 50 周年、誠におめでとうございます。今日を迎えるにあたって、歯科医師会の先生方をはじめ、関係する多くの先生方の並々ならぬお力により築かれてきたこと、改めて敬意を表し、感謝申し上げます。私は社会人入学で入学し、最初は学生として3年間学ぶことへの不安もありましたが、44 期生は社会人入学の友人が多く、また、10 代の同期生の皆も年齢関係無く、仲良く接してくれ、あっという間の3年間でした。歯科衛生士として、再び社会に出た時どう在るべきかを学ぶことができた貴重な時間でした。ただ日々の診療をこなすのではなく、探究心や疑問を常に持ち、よりよい治療を患者様に提供できるよう、日進月歩、進む知識や技術を学ぶことがとても重要だと思います。また、これはどんな職業にも通じることだと思いますが、私が1 番大切にしていることは真心を欠かないようにすることです。歯科はどちらかといえば、症状が無ければなかなか足が向かない場所だと思います。患者様がどんな気持ちで来院されたのかを考え、お帰りになる際には来て良かったと思われるように、真心を込めて患者様と接するようにしています。歯科の良いところは、長きに渡り患者様と接することが出来る場所だと思います。その患者さまの人生の一部に関わっているような気がして、数ヶ月毎のメインテナンスに来院して下さる時は、ただ口の中を診るのではなく、患者様の全身状態、ここ最近あった出来事など細かなところまで伺うようにしています。知識や技術はもちろんのこと、それを更に上回る人間性も大切なことです。これからの社会の変容に対応できる多くの人材を育成し送り出してくださいことを期待しております。そして、歯科衛生士としての仕事に誇りを持ち、今後ますます高まる専門口腔ケアのニーズに応えられるよう、私も臨床経験を積んでいきたいと思っています。最後に秋田県歯科医療専門学校の更なる発展と同窓生の皆様の活躍を祈念申し上げます。

母となりみえた目標とする歯科衛生士像

第 45 期生 渡辺 優香(旧姓 小川)

秋田県歯科医療専門学校創立 50 周年おめでとうございます。3 年間の学生生活を思い出すと懐かしさと同時に過ぎ去ってしまった寂しさを胸に感じます。今も仲間一人一人の顔が思い出され、校舎内の風景、教壇に立つ先生方の姿、実習先での奮闘、失敗し怒られたことでさえ私の大切な思い出であり、財産です。私は現在、幼い二人の子供を育てながら衛生士として勤務しています。仕事、育児、家事に追われながら体力勝負の毎日を送っています。私は出産と育児のため、同級生よりも 1 年半遅れて歯科衛生士 1 年目を迎えました。全てにおいて技術が必要な歯科医療。そして、決められた時間内で業務をこなすためには、早く正確であること、適切な判断力、チームワーク、コミュニケーション、様々な能力が求められ、初めは自信を失ってばかりでした。できない自分がどんどん取り残される思いでした。しかし、仕事が終われば家事や育児が待っていて、どんなに落ち込んでいても気持ちを切り替えなくてはなりません。そんな状況が私を強くしてくれたと感じます。また、歯科医療における接遇を学ぶ機会があり、それをきっかけに自分の向上心が高まったように思います。できない。ではなく、何なら今すぐできるだろう。そう考えるようになり、挨拶、話しやすい雰囲気作り、明るい声や表情などを心がけているうちに患者さんやスタッフとのコミュニケーションを楽しめるようになりました。スケーリング、PMTC など、衛生士業務にも慣れ始めた頃、患者さんから、とても気持ちよかった。またお願いします。と笑顔で言って頂けた時心から嬉しく思いました。また、プラークやカリエスが多く、治療をしてもまた繰り返してしまいそうな方への TBI や保健指導、歯周病と全身疾患の関わりについての周知は重要です。どうしたら予防歯科にもっと感心を持ってもらえるか、日々そう考え、実践しながら仕事をしています。また、毎日の育児の経験を元に、治療に来る子供のお母さんお父さんの悩みや相談にも寄り添える歯科衛生士になることも目標です。衛生士としても母としてもまだ未熟な私ですが、これまでに指導頂いた先生、先輩方、支えてくれる家族に感謝しながら歩んでいきます。そして、歯科衛生士という職業がより注目され、活躍できるよう、幅広い知識や技術の他、医療人としての豊かな心や、困難に立ち向かえる強さも育てて頂きたいと思っています。歯科医療の進歩と共に秋田県歯科医療専門学校のさらなる発展を心から祈念申し上げます。

描く理想の歯科衛生士に、これからも

第46期生 三國 朋子 (旧姓 岩野)

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立50周年おめでとうございます。

ついこの前までの学舎から封書が届き、あの頃の事を少し思い出していました。

創立50周年を迎えるという事で、誠に喜ばしいことと思います。

また在校時には、校長先生をはじめ諸先生方の熱心なご指導にも改めて感謝申し上げます。

歯科医療の現場では、臨機応変な対処が必要だと勉強する毎日を送っています。患者さんの生活環境や、その人自身のデンタルIQ、物事への考え方は十人十色なため、患者さんによって全く異なる処置やアプローチが必要です。目の前にいる患者さんにとって最もベストな歯科医療を提供をする為に、今の私に出来るベストな対応をします。

そして今回の私の対応は正しかったのか、毎回先生や先輩と相談しながら歯科衛生士として過ごしています。

もっと出来る対応の幅が広がれば、より多くの患者さんに満足してもらえと思うので、今の自分にはいったい何が出来ていて、何が出来ていないのかを確認する事を大切に、習慣にしています。

多くの患者さんと一所懸命に向き合う分、悩んだり落ち込んだりする事もありますが、そんな中でも明るく元気付けてくれるのはやっぱり目の前にいる患者さんの笑顔や、先生や先輩からの感謝の言葉です。

自分のアプローチがきっかけで口腔内の状態が良くなっていく患者さんや、良い方向に行動変容していく患者さんの姿と笑顔をみる機会も増えてきたので、それと同時に達成感を感じる機会も増えました。

自分が描く理想の歯科衛生士にほんの少しだけでも近づいてきている実感もあるので、私はこの仕事を選んだ事は間違いなかったなど、実感しております。

歯科医療専門学校で過ごした3年間で学んだことは、実際に臨床の場で必要とするものばかりでした。

今後も優秀な歯科衛生士になり得る生徒さんを育てて頂き、いずれ同じ母校の卒業生同士で同じ臨床にあたる機会が訪れる事を切に願います。

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科の50周年を新たな飛躍の出発点とし、益々の発展を心から願い、お祝いの言葉といたします。

輝く歯科衛生士を目指して

第47期生 高橋 優衣

この度、秋田県歯科医療専門学校が創立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、在校時には、校長先生をはじめ諸先生方の熱心な御指導にも心より感謝申し上げます。

私は秋田県歯科医療専門学校を卒業後、歯科医院に勤め始めもうすぐ2年が経ちます。学生時代のことがつい昨日のこの様に思い出されます。勉強や臨床実習と忙しく大変な毎日ではありましたが、友人と楽しい時間を過ごすことができ、臨床実習では様々な症例を見たり、歯科衛生士さんからたくさんのお話を学んだりできました。国家試験前は毎日、不安と緊張の連続でしたが、周囲の支えとアドバイスのおかげで最後まで乗り越えることができました。そして、無事にクラス全員が国家試験に合格することができたのも、先生方からの熱心な御指導によるものと改めて感謝申し上げます。

就職してからは、初めてのことに戸惑うことばかりでした。学生の時とは違い社会人としてより責任感も増し、歯科衛生士として一生懸命努力している毎日です。職場の先輩方の仕事への熱心な姿、常に学ぼうとする向上心の高さに圧倒されながらも、少しずつではありますが日々成長しているものと、自分自身を励ましながら頑張っているところです。働き始めると楽しいことばかりではなく、今まで勉強してきたことに加え、更に多くの知識を身に付けたり、技術をスキルアップさせたりする必要性を強く感じるようになりました。また辛いこともたくさんありますが、前向きに頑張ることができているのも、担当の患者さんを持てたこと、そして患者さんと関わることの楽しさ、仕事へのやりがいを感じる事ができたからだと思います。自分を支えて下さった家族や友人、先生や先輩に感謝しながら、これからもスキルアップして輝き続ける歯科衛生士になれるよう頑張っていきたいと思います。

秋田県歯科医療専門学校がますます発展されますことを祈念申し上げます。

社会人一年目

第48期生 浅利 窓花

秋田県歯科医療専門学校創立 50 周年おめでとうございます。この永い年月の間、学校の歴史と伝統の礎を築かれてこれ、ご指導下さいました諸先生方に深い敬意とお慶びを申し上げます。

私が学生だった頃の写真を時々見ると、常に笑うみんながいてああ楽しかったんだなと戻りたいと思う日々です。その思いとは別に、歯科衛生学校に入った時は何も分からず、専門用語を覚えたり見たことも使ったこともない器具を使って実習をして歯科衛生士になってもできるかどうか不安でした。臨床実習では、どれだけ先生が今何を思って何を必要としているかを判断してすばやい行動をとって患者さんや先生の負担を軽減できるようにしてる歯科衛生士さんの姿を見て常に考えて行動することを学びました。臨床実習をいかして、仕事を頑張るぞと息込んだものの、実際、患者さんについてみると全くの出来なさに仕事に行きたくないという日々でした。患者さんにそった治療をすること、分かりやすく説明することを考えて行動することは分かっていたのですが、実際に経験してみるととても難しいです。今、就職して半年以上たちますが最初の頃から患者さんにも先生にも歯科衛生士の方にも迷惑をかけて申し訳ない気持ちと何がだめだったか、先輩の衛生士を見て学べと自分に言いきかせて日々進歩できるようにまた、片付けなど出来ることは率先してやるように心がけています。失敗して落ち込んだ時は、学生だった頃臨床実習で同じようにつらい思いをした仲間を思い出します。今何してるかな、同じようにつらい思いしてるんだろうな会いたいなと日々思います。そんな日々でも、定期検診で来た患者さんに最後、気持ちよかったと言ってもらったり、以前はできなかったことができるようになった時、うれしく思います。今はまだ出来ないことだらけですが、成長できるように頑張りたいです。これからも大変なこともあると思いますが、患者さんに感謝してもらえるような歯科衛生士になりたいです。





在校 生

49期生

第49期生 榊原 伶奈

不安と期待を胸に抱き、入学してから早いもので3年が経とうとしています。この3年間、楽しいことも辛いこともたくさんありましたが、振り返ってみると1日1日が充実した日々でした。

入学してすぐに、白衣や教科書、歯科医院でよく見ていた器具が自分のもつに渡り、「本当に歯科衛生士になるんだ」と実感がわきました。ワクワクした気持ちとともに、聞き慣れない歯科用語、実習など全てが初めてのことばかりで不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし、同じ目標を持つクラスの人々と協力し、少しずつ学校生活にも慣れ、定期試験、臨床実習を乗り越えることができました。

臨床の間では、教科書で学んだことはもちろん、患者さん1人1人に合った臨機応変な対応が大切だと感じました。歯科医院の環境に慣れず、辛い時もありましたが、実際に働く歯科衛生士を見て、自分が目標とする衛生士像が分かったような気がします。

長かった臨床実習を終えて、今は、クラス全員で合格するため、勉強に取り組んでいます。国家試験まで残り3カ月をきり、沢山ある範囲でやればやるほど、終りの見えない勉強に追われる毎日です。3年間を無駄にすることのないように、また「やりきった」と達成感がもてるように最後まであきらめず頑張りたいと思います。

49期生は、元気づげるくらい、にぎやかなクラスでたくさん注意をうけることもあり嫌に思うこともありましたが、しかし、注意をしてもらえ、教えられることがありがたいことだと気づくことができました。遠足や球技大会などの学校行事では、団結力が学年1番だったと思います。いつも元気な49期生が大好きです。

就職後、途中で挫折しそうな時は、同じ歯科衛生士として働く、3年間一緒に頑張ったみんなと会ったら乗り越えられそうな気がします。そんなみんなと最後までこのクラスらしく笑顔で卒業式を迎えたいです。

2年生になって

第50期生 西村 舞香

入学した頃は、何もかもが初めてのことばかりで慣れるまでとても大変な毎日でした。難しく読めない専門用語がたくさんあり、その意味を覚えることも一苦労で、これから本当にやっていけるのか不安になり、辞めたいと思うときもたくさんありました。実際に私が仲の良かった友達も辞めてしまいました。ですが、そんな忙しくて大変な日々もあったという間に過ぎていきました。

2年生になり、今度は臨床実習が始まるという不安が押し寄せてきました。今まで勉強は必死に頑張ってきましたが、臨床の間ではどのようなことをするのか、どんな治療をすることが多いのか、何を頭に入れておけば役に立つのかなど、全く知識も技術もないまま10月から臨床実習が始まってしまいました。初日は全員が緊張と不安でいっぱいでした。みんなで連絡を取り合い、始まる前は頑張ろうと励まし合い、終わった後はどんなことをしたか聞いて情報交換をしました。2週間に1回の登校日や社会福祉実習でみんなに会えるということを励みに毎日実習を頑張りました。

臨床実習が始まって2カ月が経ちました。1回目の実習も残りわずかです。毎日たくさんの治療や外科手術を見て補助につくことで自分でも成長しているなど感じるようになりました。治療の流れが分かるようになったので、何を準備しておけばいいのか、次に何をを使うのかなど、先のことを考えて行動できる力がついてきたと思います。ですが、まだまだ指導されることは多いし、働く衛生士を見ると、もっと頑張らないといけないなとも思います。来年の10月まで実習は続き、怒られて泣いてしまうこともあると思いますが、全員で乗り越えて、一人一人が目指す衛生士に少しでも近づけるようにこれからも頑張っていきたいです。そして、3年生になったら全員で国家試験合格できるように勉強も今のうちから取り組み、後になってから後悔しない生活を送りたいです。

入学してからの半年間

第51期生 伊藤 千夏

時間が経つのは早いもので、気が付けばもう半年が過ぎました。入学当時は何もかもが初めての事で、右も左も分からなくて常に不安な気持ちでした。授業やその他の学校生活も、ついていくのが精一杯で本当にこれから3年間やっていけるのだろうか、後ろ向きなことばかり考えていました。でも今では「頑張ればなんとかなる。」という前向きな気持ちを持てるようになりました。そう思うことができるようになったのは、先輩と一緒に活動した遠足や合同実習で授業についてアドバイスをもらうことができたこと、先生方の熱心な指導があったこと、そして励まし合えるクラスの友達がいたからです。高校生の頃とは全く違う環境の中で、学んだことのない教科も多く、どれも難しいものばかりでした。その上、座学だけではなく実技も多く、自分が思った通りにできず、辛くて心が折れそうな時が何度もありました。そんな時、いつも友達に励まされ乗り越えることができ、友達の大切さを改めて実感することができました。そして、これからも今まで以上に友達を大切にして、自分も誰かを支えたり、お互いを高め合うことのできる存在でいたいと強く思いました。

私はこの半年間を経て、歯科衛生士という職業は想像していた以上に厳しい職業だと感じています。技術はもちろんのこと、コミュニケーション能力や様々なことに臨機応変に対応できる柔軟性がなければなりません。またこれから学校で習うことだけではなく、実務に就いてから身につけなければいけないことも沢山あり、高い向上心と強い意志がないとやっていけないと思います。その反面、患者さんによって治療方法が変わるので毎日が新鮮で、人の温かみや感謝される喜びを近くで感じるができるやりがいのある職業でもあると思いました。

まだ先は長く今よりもっと大変で辛いことがあると思いますが、そんな時もめげずに、自分自身で数ある職業の中から歯科衛生士を選んだことを忘れず、臨床実習や国家試験に向けて日々の生活で学ぶ姿勢を大事にして努力していきたいと思います。そしてクラス全員で歯科衛生士の資格を手にして後悔のない3年間にしたいと思います。



The background of the page features a light gray, textured surface. Overlaid on this are several thin, white, wavy lines that sweep across the page from the bottom left towards the top right. Scattered throughout the background are numerous small, white, diamond-shaped or square-like motifs, some of which are slightly larger and more prominent than others.

旧 役員・教職員



思い出すままに

元校長 小松 雅治

創立 50 周年を迎えられ誠にありがとうございます。退職 1 週間程前に突然、高校の 4 期先輩である石田宏前会長から学校の経営を手伝って欲しいと要請されたのが本校との関わりの始まりです。

5 年間の在職中、技工士科の閉科や衛生士科の 3 年制課程移行等、本校が大きく変貌する時期に立ち会う事ができました。3 年制課程への移行にはいくつかの課題がありました。2 年制課程にはなかった「卒業研究」への取り組みもその一つであったと記憶しています。

社会人入試の導入や、戴帽式を宣誓式に衣替えし、「ナイチンゲール誓詞」を本校独自の「誓いの言葉」に内容を変更した事も思い出します。学生の皆さんの毎日の学校生活を見守り続けているナイチンゲール像の台座には「我が道を忠恕の心と共に歩まん」とありますが、学生の皆さんの卒業後の心構えはかくあるべしとの願いを込めた言葉です。

志半ばでご逝去された石田宏前会長の葬儀前日に職員・学生全員で黙祷を捧げてお別れをしたことは辛い思い出です。中央公園でのなべっこ遠足、全員リレーで盛り上がった運動会、技工士科の学生と共にした修学旅行、授業参観や校長室での面談等が懐かしく思い出されます。緊張しながらも臨地実習に励んでいる学生の姿には好感が持てました。

夏になれば校長室の窓から見える前庭は雑草が元気に伸びています。草刈りを思い立って初めて草刈り機を手にしたのですが、操作に不慣れで失敗もあり、教務部長の大淵先生が植えてくださった花をつい刈り取ってしまいました。今頃になってごめんなさい。

本校を退職する 3 月に東日本大震災が起き卒業式は 2 週間延期され、年度末が押し迫った 26 日に挙行、私の 43 年間の教員生活が終わりました。退職後すぐ太極拳を始め昨年 2 段に合格出来ました。いつまで続けることができるかわかりませんが、目標を持って日々練習に励んでいる昨今です。

最後になりましたが、歯科医療教育に不案内の自分が大過なくすごす事ができたのは副校長の杉田達夫先生、教務部長の大淵義孝先生はもとより、授業を担当された諸先生や吉田律子科長はじめ教務の先生方のご支援のお陰です。お世話になりありがとうございました。本校の更なる飛躍を祈念しております。



創立50周年をお祝いする

元校長 荒川 恭嗣

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科が創立 50 周年を迎えられますことに、心からお祝い申し上げます。また、秋田県唯一の歯科衛生士養成学校として、秋田県歯科医師会、そして教職員、学生が一体となって責任とプライドを持ってこれまで本県の健康と安心を支えて参りましたことに深く敬意を表するものであります。

私は平成 23 年 6 月から平成 26 年 10 月まで 3 年 5 ヶ月ほどお世話になりました。

高校教育に長く携わっていたとは言え、久しぶりの若い世代との出会いにとまどいながらも多くの元気とパワーをもらうことができました。そして、急激な社会の変化や少子化等により入学してくる学生も学力はもとより関心意欲においても多様化していくなかで、教務の先生方の適切なご指導により、「忠（まごころ）」と「恕（おもいやり）」でもって温かく接しようとする姿勢が醸成されていった 3 年間の学生の成長に驚いたものでした。

教務の先生方には「厳しさ」とともに「ほめて育てる」ことをお願いしました。それは単に迎合することではなく「やってみて、言って聞かせてさせてみて、誉めてみる」と古人の言葉にあるように指導しても誉めてやらねば成長はありません。そのためには学生を日頃からよく観察し、見つけた誉めるものをポケットに入れて忍ばせておき、機会を捉えてポケットから出して誉めてやってくださいと。

韓国への初めての修学旅行を秋田県からの支援のもと実施し、韓国の歯科衛生士を目指す学生との交流や施設等の見学を通して医療人としての使命感を学びました。異文化体験は歯科医療にすぐには直接結びつかなくても、学生にとっては視野を広げてくれたものと期待しております。

在任当時の日本学生支援機構からの毎年の報告によると本学の卒業生のうち、奨学金を返還すべき滞納者はゼロでした。様々な理由があるにせよ、滞納者、未納者の増加が社会問題化するなかで、本学の卒業生が資格を取得して安定した職に就き、責任をもって返済していることに誇りを持ちました。

終わりに、秋田県歯科医療専門学校が、これからも秋田県の健康と安心を届ける第一線の医療人を輩出する学校としてますますの飛躍と発展を祈念してお祝いの言葉とします。



秋田県歯科医療専門学校 歯科衛生士科 創立50周年記念

元校長 秋田県歯科医師会副会長 佐藤 金彦

歯科衛生士科創立 50 周年誠におめでとうございます。私が歯科衛生士科に関わるようになったのは平成 12 年に歯科医師会の役員になってからで、その後平成 26 年 10 月に前任者の退職で校長の職が突然回ってきました。歴代の校長は長い教職の経験者ばかりでした。私には経験もなく何もできませんでしたが、教務・講師・学生の協力により半年の任務を無事終了することができました。卒業証書授与式は大変でしたが思い出に残っています。何人かの学生に「ありがとうございました」と声を掛けられ大変うれしく思いました。学生は皆いい子ばかりでした。その後どうしているだろうと時々心配になります。まだ歯科衛生士を続けているのでしょうか。若い歯科衛生士ほど離職率が高いと言われるし、平均して 4~5 年で退職しほとんど復職しないといわれている。あんなに苦労して臨床実習を経て国家試験に合格したのだからできるだけ続けてほしい、退職した後も早く復帰してほしい。希望です。

この 50 年間で歯科衛生士を取り巻く環境は大きく変化しました。学校は 1 年制から 3 年制に変わり、勤務先も歯科医院だけから病院・介護施設・内科医院と増えました。仕事内容も予防・補助業務からあらゆる施設での口腔ケアが重要な任務になりました。今では歯科衛生士がいないと治療や指導が効率よくしづらくなってきています。需要がますます増加し供給が追いつきません。今こそ歯科衛生士が必要とされています。だが昨年から受験生が減少してきています。増加はなかなか見込めません。また復職支援活動も難しいようです。やはり歯科衛生士の待遇改善が一番必要だと思います。仕事がついに割には給料が安いし、簡単に休暇も取れない。病気になってもなんら補償もない。特に福利厚生面でおとっている。好景気になると他の職種に給料面で負けてしまい人材が集まらなくなります。歯科衛生士に誇りをもち患者さんを口腔から健康にしようとする意気込みがなければ続かない。この状況を打開するのは大変なことですが歯科医師会が協力し合って若い歯科衛生士を育てていかなければいけないし、守っていかなければなりません。また歯科の地位向上と経済面の向上を目指して働きかけていかなければならないと考えています。



秋田県歯科医療専門学校50周年 おめでとうございます。

元学校教育理事 荘司 薫

先日、同学校より原稿の依頼がありました。私はほんの一年程教務部長を務めさせて頂きました。しかし一年といっても当時は技工士科と衛生士科が別々の場所にありまして、両科を担当するというとても重要な役職を任されていました。当時を振り返ると、入学試験時の面接は鮮明に覚えています。また、卒業式そのあとの謝恩会のことも記憶にあります。何とか苦労して卒業してくれた学生さんや、とても優秀な学生さんもみんなが笑顔で卒業してくれて、肩の荷が下りました。

技工士科は少人数でとても優秀な学生さんが多くて特に大きな問題はなかったと記憶しております。一方衛生士科では様々な問題があり、毎日のように教務科から電話があり対応に追われました。電話で対応できる場合は良いのですが、直接出向くことも多々あり、そのたびに車で往復 180 キロ 3 時間の道のりを走り、1~2 時間程度の話し合いをしていました。当時は学校長（県歯科医師会会長）だったので、何かあると最初に教務部長の私のところに報告がきました。しかし、技工士科には杉田先生、衛生士科には大淵先生と、とても頼りになる先生がいらっしゃいましたので、的確なアドバイスを頂き解決していききました。また専務理事の菅原先生とも理事会のあとに何度も話し合いました。とてもお世話になりました。自医院の問題などあり一年間で辞めてしまいましたが、とても充実した一年だったと思います。本音はもう少しやっていただきたかったです。

また、同校の授業を、診療時間を割いて受け持ってくださいる多くの先生方には、頭が下がる思いです。今後ともよろしくお願いいたします。

現在は同校も衛生士科だけになり学生さんも定員割れで大変そうですが、歯科医院にとってとても重要なスタッフです。最近、同校のテレビ CM を見るようになり、効果が出て沢山の入学希望者がいることを祈ります。

この後も引き続き運営のほどよろしくお願いいたします。

最後に、学校教育に関われた一人として、50 周年をお祝い申し上げます。



創立50周年に寄せて

元学校教育理事 齋藤 祐子

この度は秋田県歯科医療専門学校衛生士科創立 50 周年、誠におめでとうございます。半世紀が経過したその歴史に思いを馳せると様々な困難があったと推察致します。歴代の会長はじめ校長先生、教職員の先生方、関係各位、会員の皆様方に、心より敬意を表します。

私が学校教育理事を拝命したのは、衛生士科が三年制に移行する三年前でした。勤務医時代が長く、子育ても今は亡き両親に助けられながら、独立開業して 10 年後、“学校教育”に関わるとは夢にも思わず、両立できるだろうか…と重責を任うことにとまどったあの頃を思い出します。しかし、一諸共育していただけると信じ、また私達が意気消沈しては夢に向かっていく学生達に申し訳なく前に進むべく心を正し、気合いを入れて秋田市に通いました。県歯会員として現状は聞いていたものの、実際、携わってみますと、沢山の課題や問題点が山積の状況でした。衛生士育成のための学校運営、環境作りと二年制から三年制への移行時期でしたので、“平成 20 年 4 月から三年制とする”と決まった時点で、移行に伴う手続き申請日までのタイムスケジュール、運営形態についてなど々…検討会、協議会と多忙な時間でした。教務の先生方も日常の仕事に加えて、カリキュラム案を作成したりと大変だったことと思います。現在は、その努力が実り三年制となり、衛生士資格と介護職員初任者認定も取得でき、安定した、信頼される秋田県唯一の歯科医療専門学校として今、在ることを誇らしく思っております。

私は歯科医師個人として果たす責任と、この学校教育に関わって組織の一員として果たすべき責任を通して、独りよがりになりがちだった時に、先生方、関係各位の方々より、己が何をすべきかの多くの示唆をいただけたことに改めて感謝申し上げます。今後は、卒業した衛生士さん達の絆が深まり高齢化が進む秋田県民の健康寿命を伸ばすべく人々の幸福（口福）に貢献していただきたいと心より願っております。

結びに、50 周年という新たな出発に際し、良き校風、伝統を受け継ぎ、ますますの発展を祈念しまして、お祝いの言葉と致します。



創立50周年をお祝いして

元職員 伊藤 伸子

秋田県歯科医療専門学校が、創立 50 周年の輝かしい節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。また、50 年の歩みの一時期に、ささやかながらも関与させていただきましたことに、深く感謝申し上げます。

私が専任教員として仕事をさせていただきましたのは、平成 11 年 9 月から平成 17 年 2 月までの 5 年半でした。その間大変密度の濃い時間を過ごさせていただきました。

在職中は、私の至らなから歯科医師会の先生方を始め講師の先生方、先輩教務の方には、たくさんのご迷惑とご心配をおかけしたことも多々あり、当時を思い出しては反省しております。また、学生の皆さんにも手探りをしながらの状態でした。今から思うと、かなり暴走気味であったと思います。そんな、手探りの中で重ねていった日々でしたが学生たちとの関わりを通して、私自身も成長させていただいたように思います。1 つの問題が解決すれば、また次の難題が待ち受けるような状況で、苦しかったことも多々ありました。しかし、学生と共に笑ったり泣いたりしながら無我夢中で過ごした日々は私の中での大切な宝物となっています。そして、学生たちの成長を間近で見ることができ、教務としての醍醐味を味わうことが出来ました。

私事ではございますが、歯科医療専門学校を退職後、12 年間子育てをしておりましたが、昨年の 11 月に歯科衛生士としての仕事に復帰し、当時の教え子数名と共に勤務しております。12 年ぶりの仕事は、覚えることも多く大変ですが、周囲の方々に支えられながら充実した日々を過ごしております。また、教え子であった歯科衛生士の方々に昔話を聞くと、良く知っていたつもりでも見えていなかった事が多くあり思い出話に花が咲いております。

最後に、秋田県歯科医療専門学校にとってこの 50 周年という節目を新たな出発点として、この先 10 年後 20 年後、そして 50 年後の 100 周年に向けての更なるご発展となることを祈念し拙い文章ではありましたが、お祝いの言葉といたします。



The background of the page features a light gray, textured surface. Overlaid on this are several thin, white, wavy lines that sweep across the page from the bottom left towards the top right. Scattered throughout the background are numerous small, white, diamond-shaped or square-like motifs, some of which are slightly larger and more prominent than others.

現 役員・教職員



創立50周年にあたって

副校長 秋田県歯科医師会常務理事 杉田 達夫

秋田県歯科医療専門学校が創立 50 周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

歯科衛生士科は、教育目標を「歯科衛生士法に基づき、新しい知識と技術を授け、更に高い倫理観と謙虚にして飛躍する志をもつ歯科衛生士を育成する。」「口腔衛生の普及と進展を図り、生命を愛し、こころ豊かな人間性を涵養せしめる人材を育成する。」と掲げ、昭和 43 年に県内唯一の一年制歯科衛生士養成所として創立、昭和 59 年に 2 年制、平成 20 年に 3 年制に移行、現在に至っています。

卒業生総数 2045 名を数える人材を輩出し、県内外で活躍しています。

歴代校長はじめ会員の皆様、関係者各位のご尽力、ご指導に心からの敬意を表したいと思います。

さて、近年高齢化社会に突入し、疾病構造の変化に伴い、医療に対する国民のニーズも多様化し、質の高い医療提供が求められるようになりました。予防処置、保健指導、診療補助はもちろん歯・口腔（口腔衛生管理）、食べる、話す、嚥下など（口腔機能管理）、栄養、肺炎予防（全身管理）が必要とされ総合的な知識、能力を身につけなければなりません。

衛生士教育もより高度になり活躍すべき分野も拡大してきています。もっと多くの衛生士を養成する必要があります。

また、現在、入学者希望の減少、校舎の建て替え、講師不足などの大きな問題を抱えていますが、会員の皆様と協力し、解決していかなければなりません。学校がさらなる飛躍・発展できますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。



あれから

教務部長 大淵 義孝

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科（以下、衛学）は創立 50 周年を迎えました。スタートの年は私にとっても歯科医師になるためのスタートの年でした。そこで私と衛学の関りについて述べたいと思います。

人はその立場によっていくつかの顔を持っています。スタートの顔はそれなりの大学生の顔をしていたのだろかなと思います。

昭和 53 年 6 月に秋田市で開業し、衛学の臨床実習施設にもなりました。あの頃は臨床医の顔で毎朝、実習ノートのチェックなどをしていました。そして今に続いています。

十年程して、今は亡き先輩の I 先生から命じられ、柔順な後輩の顔で診療補助の講師を引受けました。私が卒業後、母校の口腔外科に入局すると教員であった父が「とうとう誰も先生にナラネガッタナ」と言っていたのを思い出して、講師を引受けた時「学校の先生になったよ」と言った事を覚えています。親孝行を気取った子供の顔をしていたに違いありません。「トッチャ」と言う渾名の父でした。

平成 4 年から全国統一国家試験になりました。それまでは各県単位で行われていて、県職員との会議や診療補助分野の問題を作った事が思い出されます。きっと少し気取った顔をしていたことでしょう。今年 3 月に行われたのは第 27 回国試ですから、27 年前のことなのですね。今、学生を合格させるための国試対策委員になっていますが、国試は難しく、自分は通りそうにありません。昨年今年の全員合格は学生と全教員の頑張りに対するご褒美のように、奇跡のように思えます。

平成 9 年、学校運営審議員になりましたがその頃、口腔解剖の講師が欠員となり、立場上引受けました。やれるつもりが「へえ、そうなのー」の連続でした。きっと自信なげな講師の顔だったことでしょう。

今年 7 月から長男と一緒に診療を始めました。早速高齢者歯科の講師になりました。まず勤め先の S 先生が周りを固め、大学の先輩の副校長が命じると言う父親と同じパターンでの決定でした。この時は「ガンバレバ」と父親の顔をしました。

開業時より衛学の卒業生に支えてもらいながらやって来て、自分は衛学との関りの中にあったと実感しています。お役に立つものであれば、もう少し衛学にご奉公することにしましようか。「トッチャ」のつもりが「ジッチャ」になってしまいました。

附 50 周年記念に衛学の前庭に「おだまき」を植えました。いつまでも花を着けてくれるよう念じつつ。



旧商業高校跡地

一般社団法人秋田県歯科医師会 事務局長 鈴木 寿

私は秋田県歯科医師会に昭和五十二年四月に入社しましたが、その当時衛生士学校は会館の二階にあり、三階には技工士学校がありました。その年の入学生は大半が私と同じくこの年に高校を卒業しており、同年代の学生が羨ましく思っていました。

最初、学校事務と会計を数年担当しておりましたが、へき地診療のデンタルカーが廃止になったので先輩の長谷部さんへ引き継いだ記憶があります。へき地診療といえば担当していたのが衛生士学校の教務の先生でしたから、当時は大変だったと思います。

歯科衛生士科が二年制課程に移行するタイミングで秋田市山王の旧歯科医師会館から現在の場所へ新築移転したのが昭和五十九年四月でした。請け負ったのが鹿島建設、設計が渡辺佐文設計事務所でした。当時の予算書を見ると建設費が二億七千五百万、暖房設備・備品・設計監理費等一億二千万、それに対して歳入は当初銀行借り入れが三億でした。

最終的には会員負担は新入会員の特別負担金を含め三億四千万、補助金は日本自転車振興会からの四千二百万、秋田県二千万、市長会五百万という内容でした。

建設された場所は、私の母校である秋田商業高校跡地ですが、衛生士学校の三階教室から外を見ると昔の白黒の風景が今でも思い起こされます。実は隣の看護学校の建物は高校在学中に既に建てられていて、四十数年経過しております。また、サンライフの体育館は高校の時も体育館、柔道場などがあった場所です。衛生士学校の場所は、高校時代は女子の二クラスが学んでいた校舎がありました。土地にも何か不思議な巡りあわせがあるかもしれません。裏には合宿所がありましたが、今でもそのまま町内の集会所になっています。

五十周年を迎えその中で学校運営に事務職員、事務局長として微力ながらお手伝い出来たことに喜びを感じており、今後益々のご発展を祈念申し上げます。



創立50周年に寄せて

科長 吉田 律子

創立 50 周年という学校にとって節目の年を現職として迎えられることを喜ばしく思っております。これも、先人の先輩方々並びにこれまで学校教育に関わってこられた皆様の努力の賜物と感謝いたしております。

私が、本校に勤務してから 24 年が経ちました。勤務し始めた平成 7 年の学校は、秋田県歯科衛生士学院として 1 学年 50 名を超える学生が学んでおり、本校の卒業生ではない私は、あまり年齢の変わらない学生と共に先輩教務の指導を受け、只々無我夢中で仕事をしていました。勤務して半年、最初の担任業務が始まりました。今思うと、その日その日を懸命に学生と一緒に過ごし、先の事を考えて何かをするという余裕もなく日々の仕事をしていました。当時の学生には申し訳ないことをしたと思っています。

その後、平成 9 年度に 30 周年を迎えた秋田県歯科衛生士学院は、秋田県歯科技工士学校と統合して秋田県歯科医療専門学校へと変わり、高齢化社会という時代の流れに合わせ、平成 12 年度より歯科衛生士の教育課程にいち早く、ホームヘルパー 2 級課程（現：介護職員初任者研修）を導入したりと本校の教育も時代の流れと世の中のニーズに応えられるよう少しずつ変わってきました。

そして、歯科衛生士養成所の指定規則が一部改正され、平成 17 年 4 月 1 日を施行日として平成 22 年 4 月 1 日までにすべての養成機関は、3 年制以上となる事になり、本校は、平成 20 年度に 3 年制教育を開始しました。教育課程は 2 年制に比べると大綱化され、教育内容は、養成校の裁量で独自性のある教育の実施が可能になりました。本校では、以前から取り入れていた介護職員初任者研修の継続や臨地・臨床実習の充実、高齢者歯科学や訪問歯科指導、コミュニケーション論などを加えてより専門性の高い歯科衛生士を養成するために努めています。その中でも臨地・臨床実習においては、施設長の先生方を始め、多くの卒業生に後輩の指導をお願いしており、大変心強く思っています。

私がこの職に就くと決めた時、ある先輩歯科衛生士から「歯科衛生士を目指す学生が一番最初に出会う歯科衛生士があなたであることを忘れてはいけない。」と言われたことを事あるごとに思い出します。今後も初心を忘れず、学生と向き合っていきたいと思います。

これからも 80 年 100 年と本校の輝かしい歴史が刻まれるよう微力ではありますが、学校教育に携わっていきたいと思っております。

今後とも、これまで同様ご支援くださいますようお願いいたします。



創立50周年に寄せて

専任教員 金山 奈穂美

創立 50 周年。輝かしく伝統ある母校にて専任教員として在職できる喜びを感じております。

また、これまでの職務を通して多くの関係各位、卒業生の皆さんとの出会いは私自身の財産ともいうべき大切な思い出であり宝物と言えます。今日を迎えられましたのも皆様方のお蔭と心から感謝しております。

さて、本校も平成 20 年には教育体制が 2 年制から 3 年制課程に移行し、早くも 10 年が経過し、平成 23 年には「歯科口腔保健法」が施行、平成 26 年には歯科衛生士法の一部が改正され、歯科衛生士の業務実施体制の見直しが行われました。歯科衛生士を取り巻く環境は大きく変遷しております。また、その役割は重大で、歯科衛生士教育もそれに呼応し、他職種と連携して社会や個人の幅広いニーズに対応すべく、知識や技術の修得もより専門性が求められております。

勤務当初から「人に教える」ことの難しさを感じておりますが、私にとってそれは答えの見えない永遠のテーマであり、日々模索しながら現在、第 51 期生である 1 年生の担任を務めております。入学当初、耳慣れない専門用語や教科書・教材の多さに不安や緊張感が見られた彼女たちも日に日に学校生活に慣れ、友人と協力して学び、実習ができるようになりました。今までできないことができるようになったり、笑顔が多く見られたりとわずかでも日々、成長している姿を見ることがとても嬉しく、臨床実習に出るまでにはもう少し自ら考え、成長してもらいたいと見守っております。

彼女たちと向き合う時、卒業生とのやりとりを思い出しながら接しています。卒業生は今でも私の職務を後押ししてくれる大事な存在です。臨床実習先や街で会うと明るく声をかけてくれたり、学校を訪ねて当時の学校生活や今の仕事の話をしてくれます。在籍時、幼く初々しかった彼女たちも卒業後、現場で鍛えられまた、家庭を持ち社会との関係性の中から逞しく成長した大人の女性となり、彼女たちに会えることは心より嬉しく感じる瞬間です。卒業後も私たちとの関係を忘れず大事にしてくれていることが何よりもありがたく、本当に幸せで遣り甲斐のある職務であると実感しています。

私自身、微力ではありますが今後も学生とともに学び、社会に必要とされる歯科衛生士の育成に情熱を注ぎたいと思っております。

輝かしい 50 周年を契機といたしまして、母校の益々のご発展と関係各位、卒業生の皆様のご活躍を心から祈念しております。



祝 創立50周年

専任教員 菊地 広美

秋田県歯科医療専門学校が本年度創立 50 周年の歴史を数えることになりましたことは、誠に喜ばしいことで心よりお祝い申し上げます。

また、この時にあたり、50 年史が発刊されます年に、教務として在職できることを大変嬉しく思います。

平成最後の年となる 30 年度は、50 周年行事もたくさん催されました。9 月 15 日はさがきけホールを会場に、安生朝子先生をお迎えしての記念講演、11 月 18 日は秋田キャスルホテルを会場に記念式典が開催され参加させていただきました。

記念式典では、私は思いもかけず司会を務めさせていただきました。これまでの 50 年をお支えになられた先生方をお迎えしての大きな、大事な会でしたので、とても心配でしたが、知り合いの方からお声を掛けていただいたり、後に、皆様から心温まるお言葉をいただき、無事に勤めさせていただくことができましたことに、今はほっとしております。

そこに、このたび、寄稿文の依頼が舞い込みましたので、学校に着任させていただきましてからの 14 年を振り返ることにいたしました。

当時は 2 年制課程で 37 期生と 38 期生が学んでおりました。それぞれが思い描く歯科衛生士像に近づこうと学ぶ姿は、眩しく映ったのを記憶しております。私も手探りながらも師に従い教導していただいた時を思い出し、無我夢中で駆け抜けて参りました。

41 期生が入学する頃には、国民のニーズも多様化し、教育内容の充実が要求され、3 年制課程となり、私が学んだ当時にはなかった、訪問歯科指導や卒業研究などの教科が加わり、私自身もそのような新しい教育環境に乗り遅れないようにしていくために、日々学ばせていただいております。

数多くの学生と過ごす中では、教えることの難しさに戸惑うこともあります。全力で学生と向き合い、対峙しておりますと不思議なことに、次第に悩みも吹き飛び、また頑張ろうと力が湧いて参ります。そして、幸いなことに、思いもかけず、学生から感謝の言葉をいただくこともありますので、私自身、喜びを感じるとともに、もっと柔軟に、適切に対応していかなければならないと身を引き締め努力を重ねております。

51 年目のスタートを切った学校で、これからも学生が新たな歴史を刻み、心あたかな信頼される医療人として社会で活躍することに少しでもお役に立てるように、これからも孤軍奮闘して参りたいと思います。

最後に、この創立 50 周年を節目に、歯科医療専門学校が益々ご発展されますことをご祈念申し上げ、この稿を閉じさせていただきます。



創立50周年を迎えて

専任教員 菅原 由紀子

秋田県歯科医療専門学校 50 周年、この記念すべき年を教職員として迎えられましたことを大変嬉しく思います。

私が本校の専任教員になったのは 9 年前。本校の教員募集の情報をみつけ、歯科衛生士の資格を活かすことができ、「教える」ということにも新しくチャレンジできると思い、応募しました。学校ではめまぐるしい毎日を過ごしておりますが、歯科衛生士としても社会人としても活躍できる人材を育てるこの仕事を、今とても楽しんでいます。

思えば、私が学生だった頃は 2 年制教育で、多くの知識・技術を習得する、国家試験に合格するというふたつの大きな目標のために、とにかく一生懸命にカリキュラムをこなし駆け抜けたように思います。その後、臨床現場に出てから学生時代を振り返ったとき、2 年間の学びがいかに重要であったかを感じました。また、歯科衛生士として働くなか、学ぶことに限界はなく、「日々勉強」であったと思います。

臨床にいて必要だと感じたことは、チームで取り組む意識を持つこと、他業種との相互理解と、そのためのコミュニケーション能力を身に付けていくことでした。3 年制教育となった今では、その部分の教育も充実し、より臨床につながるようなカリキュラムになったと感じます。

教員となり、私が学生と向き合う上で日頃から心がけていることは、すべての学生が高い志を持って入学するわけではないので、指導する立場にはありますが、上から目線で正解を押し付けるのではなく学生と常に対等に向き合うことです。超高齢化が進むなか、歯科衛生士の存在はますます大きくなっています。歯科衛生士の本来の役割や仕事の魅力を在学中にしっかり伝えていければと思います。

今、本校を取り巻く環境は、少子高齢化等に伴い楽観視できない状況にあると言えます。しかし、今までに培われた校風、同窓会の方々の熱い期待、講師の先生方のきめ細かな指導などを財産とし、更に望まれる歯科衛生士の輩出に努めていけるよう、私自身もまた自己研鑽に努め、教務としての責務を果たし頑張っていきたいと思っています。



創立50周年に寄せて

専任教員 石塚 美波子

創立 50 周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。また、この記念すべき瞬間に教務として学生の育成に携われたことを大変光栄に感じております。

私が、本校に入学したのは 2 年制に移行した初年度でした。1 年制の 30 名定員から 50 名に増員され、校舎も山王から移転、八橋に新築されたばかりの真っ白な建物でありました。歯科医療機器も最新のものが設備されており、入学当時は、両手で抱えきれないほどの教本と今まで触れたことのない教材、見るもの、聞くもの、触れるものすべてが新鮮で、クラスメイトとともに未来に胸膨らませていたことを懐かしく思い出されます。青春を過ごした 2 年間は、何物にも代えがたい宝物となって、今の私の土台を造ってくれました。

平成 12 年に、教務として本校に戻って参りましたが、現学生達を見ていると、自分の学生時代とダブらせてしまう事が数多くあります。実習室でマネキン相手に実技の練習をしたり、講義が難解で理解出来ない様子だったり、友人達と談笑したり等、きっと何年か後、何十年か後に良い思い出となって甦るはずです。

いずれも私にとっては、親身に指導して下さった教務の先生方や同じ目標に向かって切磋琢磨した友人がいてこそこの学生生活だったように感じます。50 名で入学した私達 17 期生は、卒業まで一人もかけることなく、全員歯科衛生士として社会に旅立ちました。

当時、あまり高くなかった歯科衛生士への認知度は、諸先輩方の各方面でのご活躍のおかげで、将来最も期待される職業の 1 つとなり、「食べる事＝生きる事」として口腔衛生の担い手となっております。

秋田におきましても時代の流れの中、県民の健康に対する意識は大きく変化し、保健・医療・福祉の分野でも生活の質の向上が当たり前の時代となりました。学生にもこのような社会に貢献できる逸材になれるよう学んで欲しいと願って、日々教務としての職務に勤しんでおります。

本校で学び巣立っていく学生達が、新たな歴史と伝統を積み上げていけるよう、私も微力ながら歴史の担い手としての責務を果たしていきたいと思います。

今後も秋田県歯科医療専門学校が、益々発展することを祈念いたします。



学びの場

非常勤教員 山口 柳子

創立 50 周年の節目にあたり、まさか母校で迎える事になるとは思ってもいませんでしたので、学校の歴史と自分の歯科衛生士としての歩みを改めて重ねて思い起こすと、とても感慨深いものがあります。

ご縁がありまして本校に非常勤としてお世話になってから、早いもので 10 年が経ちました。それまでは、臨床でも同級生も周りは「学院」という呼称で通っていましたが、今ではすっかり「歯科医療専門学校」が定着いたしました。

私は、教務として主要 3 科の実習と感染予防学を担当しております。

実習においては、臨床での経験を活かし専任教員のお手伝いと軽く考えていましたが、いざ蓋を開けてみると教科書には昔は無かった新しい言葉があったり、名称や略号が変わることもあり戸惑いの連続でした。そんな中で、国家試験に出る教科書の基本を踏まえ、臨床で培ったプラスアルファを時には織り交ぜながら行っています。

また、3 年制に移行し 2 年制卒の私が習っていない科目があり、感染予防学もその 1 つです。歯科衛生士になって暫くはもちろん素手の時代でしたので、そのことを授業で学生に話すととても驚かれます。社会情勢が変化し歯科界も進化していくため、とにかく正確な情報を研修会等でキャッチしなければならず、教えているつもりが、実は自分が学んでいるという事に気づきました。そして、今や歯科衛生士に求められるニーズも多様化し、健康には不可欠な職業となってきましたので、それに対応できる知識と技術の習得に研鑽を重ね伝えていけたらと思います。

最後になってしまいましたが、今日の私があるのも、ご指導いただいた先生や先輩・同僚の皆さまのお力添えがあったからこそと心より感謝いたしております。そのいただいた財産を少しでも学生に反映し、本校のさらなる発展に微力ではありますが貢献したいと思っていますので、これからも、ご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



創立50周年を迎えて

事務局 成田 秋代

この度は、秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立 50 周年おめでとうございます。

秋田県歯科医師会の職員として採用していただき、学校会計を担当して早いもので 6 年が過ぎました。数字が大の苦手な私が会計という仕事を今日まで続けてこられたのは、いつも周囲の上司や先輩方が支えてくださったからであり、心から感謝しています。

そして現在は会計のほかに学校庶務も担当しており、入試や各種式典の準備、運営等にも携わっています。業務上、あまり個々の学生と接する機会はないのですが、新入生が緊張の面持ちで入学式を迎え、少しずつ学校に慣れてにぎやかに過ごす姿、臨床実習に出て理想と現実の壁にぶつかりながらも成長し卒業していく姿を陰ながら見守ることができ、大変嬉しく思います。

時々、歯科医師会の事業などで卒業生が現役の歯科衛生士として働く姿を見たり、現在の仕事の状況などを伺ったりする機会があります。元気いっぱい学校に通っていた学生たちが、今では歯科医療現場の第一線で重要な任務を任せられ、バリバリ仕事をこなすスーパー歯科衛生士になっているのです。歯科衛生士は人々の健康を支える素晴らしい職業であり、いつも会う度に尊敬してしまいます。

一方で、学校担当としては、年々入学者数の減少が続いていることが悩みです。現役高校生だけではなく、秋田県内外のより多くの方に、本校や歯科衛生士という職業の周知を図り、より効果的な学生募集を実践していかなければいけないと感じています。仕事は大変になりますが、やはり志のある元気な学生がたくさん入学して、学校全体を盛り上げていってくれることが何より大切です。

今年、創立 50 周年という大きな節目を迎え、これまでの歴史と伝統を振り返り大切にしながら、新たな時代に適応できる魅力的な学校づくりをお手伝いできるよう、微力ではありますが、これからも頑張っていきたいと思っています。



秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年

振り返る 20年

平成9年度



運動会（八橋陸上競技場）



運動会（八橋陸上競技場）



校舎2階ホールにて

平成10年度



運動会（八橋陸上競技場）



課外活動（仁別国民の森）



戴帽式

平成11年度



1、2年生合同実習（基礎実習室）



運動会（八橋陸上競技場）

平成12年度



修学旅行（沖縄）



修学旅行（沖縄）



入学式（講堂）

平成13年度



授業風景



卒業証書授与式（講堂）



球技大会（市立体育館〔現CNAアリーナ〕）

平成14年度



修学旅行（北海道）



卒業証書授与式後のパーティ（講堂）



課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）

平成15年度



対面式の血圧測定



1、2年生合同実習（実習室）



修学旅行（関西）

平成16年度



戴帽式（講堂）



修学旅行（関西）



実習風景

平成17年度



卒業証書授与式（講堂）



戴帽式（講堂）



修学旅行（関西）

平成18年度



卒業証書授与式（講堂）



課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）



卒業証書授与式

平成19年度



球技大会（市立体育館〔現CNAアリーナ〕）



球技大会（市立体育館〔現CNAアリーナ〕）



卒業証書授与式（旧歯科医師会館）

平成20年度



入学式（県生涯学習センター）



戴帽式（歯科医師会館）



卒業証書授与式（歯科医師会館）



卒業証書授与式（歯科医師会館）

平成21年度



(2年制課程から3年制課程へ移行したため、卒業式は実施していない)



防災訓練



学校見学会



宣誓式 (歯科医師会館)

平成22年度



課外活動（雨天のため校内）



学校見学会



研修旅行（関西）



球技大会（市立体育館〔現CNAアリーナ〕）

平成23年度



入学式（けやきシアター）



臨地実習（保育園）



課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）

平成24年度



課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）



1、2年生合同実習（実験室）



球技大会（市立体育館〔現CNAアリーナ〕）

平成25年度



入学式（けやきシアター）



課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）



研修旅行（関西）



救急法救急員講習

平成26年度



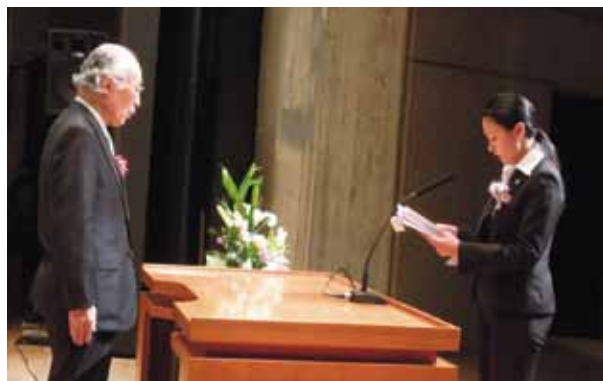
入学式（けやきシアター）



学校見学会



研修旅行（関西）



卒業証書授与式（市文化会館）

平成27年度



入学式（けやきシアター）



防災訓練



球技大会（市立体育館〔現CNAアリーナ〕）



卒業証書授与式（秋田キャスルホテル）

平成28年度



学校見学会



宣誓式（歯科医師会館）



卒業研究発表



卒業証書授与式（秋田ビューホテル）

平成29年度



臨地実習（保育園）



学校見学会



研修旅行（関西）



救急法救急員講習

平成30年度



入学式（けやきシアター）



防災訓練



臨地実習（保育所）



研修旅行（関西）

秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科創立五十周年

50 年の あゆみ

50年のあゆみ

昭和 42 年度 3.22	歯科衛生士養成所（秋田県歯科衛生士学院）として厚生省認可（中通の旧会館）	
昭和 43 年度 4.1 4.14 6.8 11.4 3.15 3.19～20	初代学院長に稲葉宏氏就任 秋田県歯科衛生士学院入学式（1年制課程） 第1期生（32名入学） 日帰りのバス旅行（田沢湖） 臨床実習開始（～3.7） 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第1期生（31名卒業） 歯科衛生士試験（学説・実地）	県人口 1,252,247 人（43.10.1） 4.25 東名高速道路が一部開通 5.16 十勝沖地震（死者・行方不明者 50 人、家屋全半壊 1,320 戸）
昭和 44 年度 4.5 9.6～7 11.4 3.18～19 3.25	秋田県歯科衛生士学院入学式 第2期生（32名入学） 一泊旅行（仙台 松島） 臨床実習開始（～3.6） 歯科衛生士試験（学説・実地） 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第2期生（32名卒業）	県人口 1,244,384 人（44.10.1） 5.26 東名・名神高速が全通 7.20 アポロ 11 号が月面「静かの海」に着陸。月面への人類の第1歩
昭和 45 年度 4 4.11 6.14 9.12 11.2 3.18～19 3.20	秋田市山王 2 丁目に新校舎竣工・移転（山王の旧会館内 2 階） 秋田県歯科衛生士学院入学式 第3期生（40名入学） 秋田県歯科衛生士学院及び秋田県歯科医師会館新築落成式記念式典 日帰りのバス旅行（仁別国民の森） 臨床実習開始 歯科衛生士試験（学説・実地） 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第3期生（39名卒業）	県人口 1,241,376 人（45.10.1） 8.2 銀座・新宿・池袋・浅草で「歩行者天国」を試験的に実施 11.25 三島由紀夫等「楯の会」5 人が自衛隊に乱入、三島ら 2 人が割腹自殺 2.10 ロサンゼルスで大地震
昭和 46 年度 4.10 5.15 11.1 3.8～9 3.22 3.25	秋田県歯科衛生士学院入学式 第4期生（40名入学） 日帰りのバス旅行（仁別国民の森） 臨床実習開始（～3.4） 歯科衛生士試験（学説・実地） 歯科衛生士試験合格発表（全員合格） 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第4期生（40名卒業）	県人口 1,237,390 人（46.10.1） 6.17 沖縄返還の協定調印 7.1 環境庁が発足 7.30 全日空機と自衛隊機が雲石上空で衝突。全日空機の 162 人が死亡
昭和 47 年度 4.8 5.13～14 5.15 7.10 10.30 3.13～14	秋田県歯科衛生士学院入学式 第5期生（37名入学） 一泊旅行（田沢湖） 特別講演（林氏） 特別講演（本村氏） 臨床実習開始（～3.2） 歯科衛生士試験（学説・実地）	県人口 1,231,056 人（47.10.1） 5.15 沖縄の施政権返還、沖縄県が発足 6.11 田中角栄が「日本列島改造論」を刊行

3.18 3.20	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第5期生(37名卒業) 歯科衛生士試験合格発表(全員合格)	
昭和48年度 4.7 6.16 9.29 11.5 3.12～13 3.20 3.21	秋田県歯科衛生士学院入学式 第6期生(33名入学) 岩手医大祭に遠藤正義先生の引率で5名が見学に行く 日帰りのバス旅行(仁別国民の森) 臨床実習開始(～3.1) 歯科衛生士試験(学説・実地) 歯科衛生士試験合格発表(全員合格) 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第6期生(33名卒業)	県人口 1,224,491人 (48.10.1) 10.6 第4次中東戦争が勃発。 OPEC(石油輸出国機構)の原油価格の70%近い値上げによりオイルショックとなる(狂乱物価)
昭和49年度 4.6 5.30 6.29～30 7.5 11.5 3.12～13 3.20 3.23	秋田県歯科衛生士学院入学式 第7期生(31名入学) 特別講演(中原氏) 研修旅行(田沢湖) 特別講演(伊藤氏) 臨床実習開始(～2.28) 歯科衛生士試験(学説・実地) 歯科衛生士試験合格発表(全員合格) 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第7期生(29名卒業)	県人口 1,222,038人 (49.10.1) 6.26 国土庁が発足 9 原子力船「むつ」が放射能漏れ事故 10.9 佐藤前首相にノーベル平和賞
昭和50年度 4.5 11.10 3.11～12 3.20	秋田県歯科衛生士学院入学式 第8期生(40名入学) 臨床実習開始(～3.3) 歯科衛生士試験(学説・実地) 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第8期生(40名卒業)	県人口 1,232,481人 (50.10.1) 7.19 沖縄海洋博の開幕 11.26 公労協がスト権剥奪スト 決行国鉄が全線ストップ 1.31 鹿児島で五つ子が誕生
昭和51年度 4.3 5.4 11.8 3.17～18 3.19 3.25	秋田県歯科衛生士学院入学式 第9期生(40名入学) 日帰りのバス旅行(田沢湖) 臨床実習開始(～3.5) 歯科衛生士試験(学説・実地) 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第9期生(39名卒業) 歯科衛生士試験合格発表(全員合格)	県人口 1,238,319人 (51.10.1) 6.25 河野洋平ら6名が新自由クラブを結成 7.17 モントリオールオリンピック大会が開幕 11.29 酒田市で大火。1,150余戸が焼失
昭和52年度 4.2 6.25 10.8 11.7 3.14～15 3.24 3.25	秋田県歯科衛生士学院入学式 第10期生(40名入学) 課外活動(仁別国民の森) 第1回歯科衛生士学院、歯科技工士学校合同運動会 臨床実習開始(～3.3) 歯科衛生士試験(学説・実地) 歯科衛生士試験合格発表(全員合格) 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第10期生(40名卒業)	県人口 1,243,154人 (52.10.1) 7 文部省が小・中学校指導要領で「君が代」を国歌と指定 8.7 北海道の有珠山が噴火 1.14 伊豆大島付近でM7の地震の発生。死者、不明者24人

昭和 53 年度 4.8 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 11 期生 (40 名入学) 6.23 課外活動 (大森山公園) 10.14 合同運動会 11.6 臨床実習開始 (～ 3.2) 3.15 ～ 16 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.23 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格) 3.24 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 11 期生 (40 名卒業)		県人口 1,247,464 人 (53.10.1) 5.20 成田空港の開港式 6.12 宮城県沖地震が発生、M7.5、死者 28 人 8.12 日中平和友好条約の調印 1.25 世界最長の上越新幹線大清水トンネル (全長 22.2 km) が貫通
昭和 54 年度 4.1 第 2 代学院長に遠藤一秋氏就任 4.7 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 12 期生 (34 名入学) 5.19 合同課外活動 (田沢湖、抱き返り) 8.31 合同運動会 11.5 臨床実習開始 1.14 身体障害者巡回臨床実習開始 (～ 2.22) 3.13 ～ 14 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.22 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 12 期生 (32 名卒業) 3.26 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)		県人口 1,251,774 人 (54.10.1) 7.11 東名高速道路日本坂トンネル内で追突炎上事故が発生。死者 7 人、被災車両 190 台 10.28 木曽の御岳山が有史以来初めての爆発 12 ソ連がアフガニスタンへ侵攻
昭和 55 年度 4.5 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 13 期生 (35 名入学) 5.24 課外活動 (鳥海山) 9.13 合同卓球大会 11.3 臨床実習開始 1.14 身体障害者巡回臨床実習開始 (～ 2.20) 3.10 ～ 11 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.20 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格) 3.21 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 13 期生 (35 名卒業)		県人口 1,256,745 人 (55.10.1) 5.24 JOC 総会の異例の採択 (29 対 13) でモスクワ五輪の不参加を決定 6.12 大平首相が急死 8.30 明治 38 年以來の冷夏記録更新 9 イラン・イラク戦争が勃発 1.6 2 月 7 日を「北方領土の日」と決定
昭和 56 年度 4.4 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 14 期生 (36 名入学) 5.2 課外活動 (大森山動物園) 9.5 合同運動会 11.2 臨床実習開始 1.12 身体障害者巡回臨床実習開始 (～ 2.22) 3.8 ～ 9 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.20 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 14 期生 (36 名卒業) 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)		県人口 1,257,280 人 (56.10.1) 4.12 米国がスペースシャトルの打ち上げに成功 7 イギリスのチャールズ皇太子がダイアナ妃と結婚 2.9 日航 DC-8 型機が羽田空港着陸寸前に海に墜落

昭和 57 年度 4.3 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 15 期生 (36 名入学) 5.29 合同課外活動 (仁別国民の森) 8.31 合同運動会 11 臨床実習開始 1.25 身体障害者巡回臨床実習開始 (～ 2.27) 3.9～10 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.19 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 15 期生 (36 名卒業) 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	県人口 1,255,972 人 (57.10.1) 4.13 政府が 8 月 15 日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と決定 1.27 本州と北海道を海底でつなぐ、世界最長の青函トンネルの先進導坑が着工以来 19 年ぶりに貫通
昭和 58 年度 4.9 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 16 期生 (39 名入学) 6.11 合同課外活動 (仁別国民の森) 7.10 秋田県歯科衛生士学院起工式 10.1 合同運動会 11.1 臨床実習開始 3.8～9 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.19 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格) 3.20 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 16 期生 (39 名卒業)	県人口 1,254,040 人 (58.10.1) 5.26 日本海中部地震が発生 死者、不明者 104 人 9.1 大韓航空機墜落事故が発生 10 三宅島が噴火 3.18 グリコ、森永事件が発生
昭和 59 年度 4.1 私立学校秋田県歯科衛生士学院の収容定員に係わる学則の変更について学校教育法第 4 条の規定により施行 2 年制課程に移行 4.7 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 17 期生 (50 名入学) 5.20 秋田県歯科衛生士学院竣工式 6.9 合同課外活動 (仁別国民の森) 8.31 合同運動会	県人口 1,252,252 人 (59.10.1) 6 日本が世界一の長寿国になる 7.28 ロサンゼルスオリンピック大会が開幕 10.31 ガンジー首相の暗殺事件が発生 1 万円、5 千円、千円の新札を発行
昭和 60 年度 4.1 第 3 代学院長に有明次郎氏就任 4.6 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 18 期生 (50 名入学) 5.25 合同課外活動 (仁別国民の森) 6.17 臨床実習開始 (～ 2.14) 9.3 合同運動会 11.5 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 2.12) 3.6～7 歯科衛生士試験 (学説・実地) 3.15 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 17 期生 (50 名卒業) 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	県人口 1,254,032 人 (60.10.1) 4.1 日本電信電話株式会社 (NTT)、日本たばこ産業株式会社 (JT) が民間企業として発足 6.8 兵庫県淡路島と徳島県鳴門市を結ぶ東洋一のつり橋、大鳴門橋 (全長 1,629m) が完成
昭和 61 年度 4.5 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 19 期生 (48 名入学) 5.31 合同課外活動 (仁別国民の森) 7.7 臨床実習開始 (～ 1.30)	県人口 1,249,014 人 (61.10.1) 4.28 チェルノブイリ原子力発電所で炉心溶融事故が発生

8.30	合同運動会	
9.3	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 1.29)	5.8 英国チャールズ皇太子とダイアナ妃が来日
12.6	第 1 回推薦入学試験導入	
3.5 ～ 6	歯科衛生士試験 (学説・実地)	
3.14	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 18 期生 (48 名卒業) 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	7.30 東北縦貫自動車が全線開通
		11.21 伊豆大島の三原山が 209 年ぶりに大噴火
昭和 62 年度		県人口 1,243,939 人 (62.10.1)
4.1	第 4 代学院長に遠藤一秋氏就任	
4.4	秋田県歯科衛生士学院入学式 第 20 期生 (55 名入学)	4.1 国鉄が分割民営化され JR となる
5.16	合同課外活動 (仁別国民の森)	7.11 世界の人口が 50 億人を突破
5.24	特別授業	9.9 青森～熊本県八代間の約 2,000km が自動車専用道で結ばれる
7.6	臨床実習開始 (～ 1.29)	
9.2	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 1.29)	9.22 天皇陛下「慢性すい炎」で手術
10.16	合同運動会	
3.2 ～ 3	歯科衛生士試験 (学説・実地)	
3.16	歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	
3.19	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 19 期生 (48 名卒業)	
昭和 63 年度		県人口 1,238,177 人 (63.10.1)
4.9	秋田県歯科衛生士学院入学式 第 21 期生 (51 名入学)	
5.14	合同課外活動 (仁別国民の森)	4.10 「瀬戸大橋」が開通
6.29	臨床実習開始 (～ 1.27)	
9.9	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 1.27)	8.20 イラン・イラク戦争が停戦
9.24	合同運動会	9.17 ソウル五輪が開幕
10.6 ～ 7	修学旅行 (盛岡)	
3.2	歯科衛生士試験 (学説)	1.7 昭和天皇が崩御
3.18	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 20 期生 (53 名卒業) 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	1.8 新元号を「平成」と定め施行する
平成元年度		県人口 1,232,789 人 (元.10.1)
4.8	秋田県歯科衛生士学院入学式 第 22 期生 (50 名入学)	
5.27	合同課外活動 (仁別国民の森)	10.18 米国サンフランシスコで大地震が発生
6.27	臨床実習開始 (～ 1.26)	
9.3	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 1.26)	
9.19	合同運動会	11.2 ベルリンの壁が 28 年ぶりに消滅
10.12 ～ 14	修学旅行 (北海道)	
3.2	歯科衛生士試験 (学説)	
3.14	歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	12.2 米大統領とソ連書記長がマルタ 島で会談、冷戦時代に終止符
3.17	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 21 期生 (48 名卒業)	

平成 2 年度 4.7 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 23 期生 (52 名入学) 5.26 合同課外活動 (仁別国民の森) 6.20 臨床実習開始 (～ 2.6) 9.1 合同運動会 9.5 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 12.20) 10.11 ～ 13 修学旅行 (横浜・鎌倉) 2.28 歯科衛生士試験 (学説) 3.15 歯科衛生士試験合格発表 (全員合格) 3.16 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 22 期生 (46 名卒業)	県人口 1,227,478 人 (2.10.1) 8.2 イラク軍がクエートに侵攻 10.3 東西ドイツが統一 11.22 天皇陛下「即位の礼」が行われる 1.6 中東で湾岸戦争が勃発 2.28 湾岸戦争の停戦
平成 3 年度 4.6 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 24 期生 (53 名入学) 6.1 合同課外活動 (仁別国民の森) 6.17 臨床実習開始 (～ 2.3) 9.4 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 12.19) 9.21 合同課外活動 (きみまち坂) 10.9 ～ 12 修学旅行 (北海道) 10.19 合同運動会 3.1 第 1 回歯科衛生士統一国家試験 3.14 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 23 期生 (49 名卒業)	県人口 1,223,138 人 (3.10.1) 6.3 雲仙普賢岳で大規模な火砕流が発生 9.28 台風 19 号により日本海側各地に被害が発生 12.21 ソ連が崩壊し、新たに独立国家共同体が発足
平成 4 年度 4.4 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 25 期生 (49 名入学) 4.10 第 1 回歯科衛生士統一国家試験合格発表 (全員合格) 5.23 合同課外活動 (仁別国民の森) 6.15 臨床実習開始 (～ 1.14) 9.2 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 12.11) 9.5 合同運動会 9.19 課外活動 (天鷲村) 10.4 ～ 6 修学旅行 (北海道) 11.26 特別授業 (角田氏、島田氏) 12.4 国際デンタルアカデミー 田村氏来校 2.28 第 2 回歯科衛生士試験 3.13 秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 24 期生 (52 名卒業)	県人口 1,219,357 人 (4.10.1) 7～8 バルセロナオリンピック大会開催 9 宇宙飛行士毛利衛氏がスペースシャトルで宇宙へ 9.17 自衛隊の PKO 第一陣がカンボジアへ出発 10.23 天皇・皇后両陛下が中国をご訪問
平成 5 年度 4.1 第 5 代学院長 (校長) に豊間隆氏就任 4.9 第 2 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格) 4.10 秋田県歯科衛生士学院入学式 第 26 期生 (45 名入学) 5.22 合同課外活動 (仁別国民の森) 6.2 臨床実習開始 (～ 12.20) 6.6 特別授業 (飯塚氏) 9.18 合同運動会 9.22 秋田県歯科衛生士学院専修学校課程設置認可申請	県人口 1,216,839 人 (5.10.1) 5 Jリーグがスタート 5.4 カンボジアで PKO 派遣部隊の日本人警察官 5 人が死傷 6.9 皇太子殿下がご成婚

9.23 ~ 25	修学旅行 (北海道)	7.12 北海道南西沖で M7.8 の地震、大津波が発生。死者、不明者 200 人以上の大被害
10.12	秋田県歯科衛生士学院専修学校課程設置認可	
12.11	特別授業 (西村氏)	
2.27	第 3 回歯科衛生士試験	
3.12	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 25 期生 (44 名卒業)	
平成 6 年度		県人口 1,215,075 人 (6.10.1)
4.1	専門学校秋田県歯科衛生士学院として施行	
4.8	第 3 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	4.26 中華航空機が墜落し、264 人が死亡
4.9	秋田県歯科衛生士学院入学式 第 27 期生 (56 名入学)	
5.21	合同課外活動 (仁別国民の森)	
6.6	臨床実習開始 (～ 12.20)	6.29 自社さがけ連立の村山内閣が発足
8.27	合同球技会	
9.7	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 12.6)	
9.10	課外活動 (雄和町フィールドアスレチック)	1.17 阪神・淡路大震災発生 (M7.2) 被害甚大
9.22 ~ 24	修学旅行 (北海道)	
11.5	特別授業 (宮崎氏)	
2.26	第 4 回歯科衛生士試験	3.20 地下鉄サリン事件
3.11	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 26 期生 (43 名卒業)	
3.12	特別授業 (丸山氏)	
平成 7 年度		県人口 1,211,616 人 (7.10.1)
4.7	第 4 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	
4.8	秋田県歯科衛生士学院入学式 第 28 期生 (51 名入学)	4.19 円高、一時 1 ドル 79 円台
5.20	合同課外活動 (仁別国民の森)	
6.5	臨床実習開始 (～ 12.20)	
6.29	専修学校の専門課程の修了者に対する専門士の称号が付与される	5.2 野茂、米大リーグデビュー
7.17	特別講演 (シェリー・バーンズ氏)	
9.1	特別講演 (佐藤氏)	
9.2	課外活動 (大森山動物園)	
9.6	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 12.14)	
9.9	合同運動会	
9.21 ~ 23	修学旅行 (長崎・福岡)	
10.18 ~ 19	山形歯科専門学校視察	
11.8	特別授業 (健康推進大会)	
11.8	特別授業 (鈴木氏)	
11.18	特別授業 (宮崎氏)	
2.25	第 5 回歯科衛生士試験	
3.1	特別授業 (西村氏)	
3.16	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 27 期生 (55 名卒業)	
平成 8 年度	第 5 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	県人口 1,210,320 人 (8.10.1)
4.5		

4.13	秋田県歯科衛生士学院入学式 第 29 期生 (55 名入学)	7.1	厚生省、病原性大腸菌 O-157 について初会合、全国 25 都府県で患者 1,600 人を超える
5.11	戴帽式を初めて行う (第 28 期生)	7.18	アトランタオリンピック開幕
5.25	合同課外活動 (仁別国民の森)	9.17	米大リーグ・ドジャースの野茂英雄投手がノーヒット・ノーランを達成
6.2	特別授業 (岡崎氏)		
6.5	臨床実習開始 (～ 12.20)		
7.5	合同運動会		
7.24 ～ 25	山形歯科専門学校視察		
9.4	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～ 12.13)		
9.7	課外活動 (サンライフ秋田)		
9.25 ～ 27	修学旅行 (長崎・福岡)		
11.2	特別授業 (宮崎氏)		
11.8	特別授業 (県民いい歯の集い)		
3.2	第 6 回歯科衛生士試験		
3.15	秋田県歯科衛生士学院卒業式 第 28 期生 (47 名卒業)		
3.31	第 6 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)		
平成 9 年度		県人口 1,205,759 人 (9.10.1)	
4.1	秋田県歯科衛生士学院と秋田県歯科技工士学校を統合し、秋田県歯科医療専門学校と校名を改称、歯科衛生士科と歯科技工士科を併設	4.1	消費税が 5% になる
4.12	秋田県歯科医療専門学校設立記念式典・講演・祝賀会		
4.12	秋田県歯科医療専門学校入学式		
	歯科衛生士科第 30 期生 (45 名入学)	10.1	長野新幹線開通
	歯科技工士科第 22 期生 (20 名入学)	10.16	臓器移植法が施行
5.10	歯科衛生士科第 29 期生戴帽式		
5.17	課外活動 (雨天中止)……………両科	11.24	山一証券経営破綻で廃業
6.5	臨床実習開始 (～12.19)……………歯科衛生士科		
9.2	運動会 (八橋陸上競技場)……………両科	12.18	東京湾アクアライン開通
9.3	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～11.26) ……………歯科衛生士科		
9.10～12	修学旅行 (関西)……………歯科衛生士科	2.2	郵便番号 7 桁化
10.18	課外活動 (大森山動物園)……………歯科衛生士科		
3.1	第 7 回歯科衛生士試験	2.7	長野オリンピック開催
3.14	秋田県歯科医療専門学校卒業式		
	歯科衛生士科第 29 期生 (53 名卒業)		
	歯科技工士科第 21 期生 (19 名卒業)		
3.31	第 7 回歯科衛生士試験合格発表		
平成 10 年度		県人口 1,201,178 人 (10.10.1)	
4.11	秋田県歯科医療専門学校入学式		
	歯科衛生士科第 31 期生 (42 名入学)	4.5	明石海峡大橋が開通
	歯科技工士科第 23 期生 (14 名入学)		
5.16	歯科衛生士科第 30 期生戴帽式		
5.22	課外活動 (仁別国民の森)……………両科	8.25	マイクロソフトが「Windows98」を発売
6.4	臨床実習開始 (～12.18)……………歯科衛生士科		
7.15	運動会 (八橋陸上競技場)……………両科		

9.9~11	修学旅行 (関西)……………歯科衛生士科	1.15 ハッピーマンデー制度導入 に伴い成人の日がこの日に やってくるのは最後
9.11	課外活動 (大森山動物園)……………歯科衛生士科	
9.16	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (~12.10) ……………歯科衛生士科	
3.7	第 8 回歯科衛生士試験	
3.13	秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 30 期生 (43 名卒業) 歯科技工士科第 22 期生 (13 名卒業)	
3.31	第 8 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	
平成 11 年度		県人口 1,196,054 人 (11.10.1)
4.10	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 32 期生 (48 名入学) 歯科技工士科第 24 期生 (16 名入学)	6.1 ソニーが子犬型ペットロボット 「AIBO」の発売を開始
5.15	歯科衛生士科第 31 期生戴帽式	6.23 男女共同参画社会基本法公布
5.21	課外活動 (岩城少年自然の家)……………両科	
6.4	臨床実習開始 (~12.20)……………歯科衛生士科	
7.8	運動会 (八橋陸上競技場)……………両科	
9.8~10	修学旅行 (北海道)……………歯科衛生士科	
9.10	課外活動 (県立中央公園フィールドアスレチック) ……………歯科衛生士科	8.13 国旗・国歌法公布
9.14	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (~12.2) ……………歯科衛生士科	
3.5	第 9 回歯科衛生士試験	9.30 東海村 JOC 臨海事故
3.11	秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 31 期生 (41 名卒業) 歯科技工士科第 23 期生 (13 名卒業)	
3.31	第 9 回歯科衛生士試験合格発表	
平成 12 年度		県人口 1,190,596 人 (12.10.1)
4.1	訪問介護員 (ホームヘルパー) 2 級課程導入 ……………歯科衛生士科	5.24 ストーカー規制法公布
4.8	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 33 期生 (57 名入学) 歯科技工士科第 25 期生 (13 名入学)	6.16 皇太后崩御 (香淳皇后) 享 年 97 (歴代の皇后中最長 の在位であり、神話時代 を除き最長寿)
5.10	課外活動 (県立中央公園ピクニックゾーン)……………両科	
5.13	歯科衛生士科第 32 期生戴帽式	
6.5	臨床実習開始 (~12.20)……………歯科衛生士科	
9.5	社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (~11.9) ……………歯科衛生士科	
9.6~8	修学旅行 (沖縄)……………歯科衛生士科	6.26 三宅島噴火
3.4	第 10 回歯科衛生士試験	
3.10	秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 32 期生 (43 名卒業) 歯科技工士科第 24 期生 (14 名卒業)	
3.29	第 10 回歯科衛生士試験合格発表	3.31 USJ 開園

平成 13 年度 4.7 5.19 6.5 7.5 7.13 9.4 9.5~7 3.3 3.9 3.28	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 34 期生 (54 名入学) 歯科技工士科第 26 期生 (19 名入学) 歯科衛生士科第 33 期生戴帽式 臨床実習開始 (～12.19)……………歯科衛生士科 球技大会 (市立体育館)……………両科 課外活動 (悪天候のため校内)……………両科 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～11.29) ……………歯科衛生士科 修学旅行 (関西)……………歯科衛生士科 第 11 回歯科衛生士試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 33 期生 (49 名卒業) 歯科技工士科第 25 期生 (9 名卒業) 第 11 回歯科衛生士試験合格発表	県人口 1,183,380 人 (13.10.1) 4.1 情報公開法が施行 9.4 東京ディズニーシー開園 9.11 アメリカ同時多発テロ 12.1 愛子内親王誕生
平成 14 年度 4.13 5.18 6.5 6.29 9.5 9.26～28 11.1 3.2 3.15 3.28	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 35 期生 (57 名入学) 歯科技工士科第 27 期生 (16 名入学) 歯科衛生士科第 34 期生戴帽式 臨床実習開始 (～12.19)……………歯科衛生士科 課外活動 (県立中央公園ピクニックゾーン)……………両科 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～12.5) ……………歯科衛生士科 修学旅行 (北海道)……………歯科衛生士科 球技大会 (市立体育館)……………両科 第 12 回歯科衛生士試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 34 期生 (51 名卒業) 歯科技工士科第 26 期生 (14 名卒業) 第 12 回歯科衛生士試験合格発表 (全員合格)	県人口 1,175,910 人 (14.10.1) 4.1 DV 防止法が全面施行 4.1 学習指導要領の見直しが図られ、完全学校週 5 日制のゆとり教育がスタート 5.31 サッカー・ワールドカップ日韓大会
平成 15 年度 4.1 4.4 5.17 6.5 6.21 9.10 9.25～27	第 6 代校長に鎌田英伸氏就任 秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 36 期生 (55 名入学) 歯科技工士科第 28 期生 (16 名入学) 歯科衛生士科第 35 期生戴帽式 臨床実習開始 (～12.19)……………歯科衛生士科 課外活動 (悪天候のため校内)……………両科 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始 (～11.27) ……………歯科衛生士科 修学旅行 (関西)……………歯科衛生士科	県人口 1,167,365 人 (15.10.1) 5.9 小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ

5.26 6.5 9.7~9 9.14 9.19 3.4 3.10 3.26	課外活動(県立中央公園ピクニックゾーン)……………両科 臨床実習開始(～12.15)……………歯科衛生士科 修学旅行(沖縄)……………歯科衛生士科 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始(～11.30) ……………歯科衛生士科 球技大会(市立体育館)……………両科 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第38期生(52名入学) 歯科技工士科第30期生(12名入学) 第16回歯科衛生士試験合格発表	10.10 ご当地ナンバーが17地区 で導入される 2.18 第1回東京マラソン開催 3.30 東京ミッドタウンが オープン
平成19年度 4.4 5.19 5.25 6.5 9.5~7 9.11 9.13 3.2 3.8 3.25 3.31	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第40期生(49名入学) 歯科衛生士科第39期生戴帽式 課外活動(悪天候のため校内)……………両科 臨床実習開始(～12.18)……………歯科衛生士科 修学旅行(関西)……………歯科衛生士科 球技大会(市立体育館)……………両科 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始(～11.29) ……………歯科衛生士科 第17回歯科衛生士試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第39期生(49名卒業) 歯科技工士科第31期生(6名卒業) 第17回歯科衛生士試験合格発表 歯科技工士科閉科	県人口 1,121,300人 (19.10.1) 4.27 東京駅丸の内口正面に新丸 の内ビルディングオープン 7.16 新潟県中越沖地震発生 10.1 郵政民営化に伴い、日本 郵政公社が解散 気象庁が緊急地震速報を 開始
平成20年度 4.1 4.4 5.17 5.23 6.5 9.10~12 9.18 10.10 3.1 3.7 3.25	歯科衛生士学校養成所指定規則の一部改正により3年制課程 となる 秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第41期生(41名入学) 歯科衛生士科第40期生戴帽式 課外活動(県立中央公園ピクニックゾーン) 臨床実習開始(～12.18) 修学旅行(関東) 社会福祉施設歯科巡回臨床実習開始(～11.27) 球技大会(市立体育館) 第18回歯科衛生士試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第40期生(43名卒業) 第18回歯科衛生士試験合格発表	県人口 1,109,007人 (20.10.1) 4.1 後期高齢者医療制度の施行 メタボリックシンドローム 予防を目的とする「特定 健診・特定 保健指導」を義務化・開始 9.16 リーマン・ショック
平成21年度 4.3	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第42期生(29名入学)	県人口 1,097,483人 (21.10.1)

5.22	課外活動（悪天候のため校内）	4.15 歯科衛生士法第3条の一部改正により歯科衛生士国家試験（従前、歯科衛生士試験）となる
8.29	歯科衛生士科第41期生宣誓式	5.21 裁判員制度施行
10.1	臨地・臨床実習開始（～H22.9.30） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕	9.1 消費者庁が発足
10.9	球技大会（市立体育館）	
10.24	社会人入学試験導入	
3.7	第19回歯科衛生士国家試験 （3年制課程へ移行したため受験生はいなかった）	
平成22年度		県人口 1,086,571人（22.10.1）
4.6	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第43期生（39名入学）	5.21 金星探査機「あかつき」打ち上げ
5.28	課外活動（悪天候のため校内）	7.17 改正15歳未満の子供の臓器移植を可能とした臓器移植法（2009年改正）が施行
9.18	歯科衛生士科第42期生宣誓式	
10.1	臨地・臨床実習開始（～H23.9.29） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕	
10.13～15	研修旅行（関西）	
10.22	球技大会（市立体育館）	
2.27	第20回歯科衛生士国家試験	
3.26	秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第41期生（41名卒業）	
3.28	第20回歯科衛生士国家試験合格発表（全員合格）	3.11 東日本大震災発生
平成23年度		県人口 1,075,058人（23.10.1）
4.1	第8代校長に藤原元幸氏就任	
4.5	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第44期生（41名入学）	7.24 地上デジタル放送に完全移行（岩手県、宮城県、福島県を除く）
5.27	課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）	8.10 歯科口腔保健の推進に関する法律の公布
6.1	第9代校長に荒川恭嗣氏就任	
9.17	歯科衛生士科第43期生宣誓式	12.4 東北新幹線 八戸駅 - 新青森駅間が開業し、同線が全通する
10.3	臨地・臨床実習開始（～H24.9.27） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕	2.10 復興庁が発足
10.10～13	研修旅行（韓国）	
10.28	球技大会（市立体育館）	
3.4	第21回歯科衛生士国家試験	
3.10	秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第42期生（29名卒業）	
3.28	第21回歯科衛生士国家試験合格発表	
平成24年度		県人口 1,063,143人（24.10.1）
4.3	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第45期生（53名入学）	5.22 東京スカイツリー開業
5.25	課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン）	
9.15	歯科衛生士科第44期生宣誓式	10.1 郵便局株式会社と郵便事業株式会社との統合により「日本郵便株式会社」を設立
10.1	臨地・臨床実習開始（～H25.9.30） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕	

10.10~12 11.16 3.3 3.9 3.27	研修旅行（関西） 球技大会（市立体育館） 第 22 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 43 期生（37 名卒業） 第 22 回歯科衛生士国家試験合格発表	10.8 ノーベル生理学・医学賞を 京都大学山中伸弥教授が 受賞
平成 25 年度 4.3 5.24 9.14 10.1 10.9~11 12.6 2.12 3.2 3.8 3.27	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 46 期生（48 名入学） 課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン） 歯科衛生士科第 45 期生宣誓式 臨地・臨床実習開始（～H26.9.30） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕 研修旅行（関西） 球技大会（市立体育館） 法改正により介護員（ホームヘルパー）2 級課程に替わり 介護職員初任者研修課程導入 第 23 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 44 期生（38 名卒業） 第 23 回歯科衛生士国家試験合格発表	県人口 1,050,132 人（25.10.1） 5.31 テレビ放送における 東京スカイツリーからの 本放送開始 8.12 高知県四万十市で日本国内 観測史上最高気温となる 41.0 度を観測 3.9 宇宙飛行士の若田光一が 日本人初の国際宇宙ステー ションの船長に就任
平成 26 年度 4.3 5.23 9.13 10.1 10.8~10 10.27 11.1 3.1 3.7 3.27	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 47 期生（48 名入学） 課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン） 歯科衛生士科第 46 期生宣誓式 臨地・臨床実習開始（～H27.9.30） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕 研修旅行（関西） 球技大会（市立体育館） 第 10 代校長に佐藤金彦氏就任 第 24 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 45 期生（45 名卒業） 第 24 回歯科衛生士国家試験合格発表	県人口 1,036,861 人（26.10.1） 4.1 消費税が 8% になる 9.27 御嶽山が 7 年ぶりに噴火 1.23 大相撲初場所 13 日目で横綱 白鵬が史上最多の 33 回目の 幕内最高優勝を決め、元横 綱・大鵬の記録を超え歴代 最多記録達成
平成 27 年度 4.1 4.3 5.22 8.10 9.12 10.1	第 11 代校長に星野滋氏就任 秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 48 期生（44 名入学） 課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン） 実習室改修〔実習机、実習用マネキンの入替〕 歯科衛生士科第 47 期生宣誓式 臨地・臨床実習開始（～H28.9.30） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕	県人口 1,023,151 人（27.10.1） 6.17 選挙権の年齢を 20 歳以上 から 18 歳以上へと引き下 げた公職選挙法改正案が 参議院で可決成立

10.7~9 11.13 3.6 3.11 3.28	研修旅行（関西） 球技大会（市立体育館） 第 25 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 46 期生（45 名卒業） 第 25 回歯科衛生士国家試験合格発表	10.1 スポーツ庁設置 3.26 北海道新幹線新青森駅 - 新函館北斗駅間開業
平成 28 年度 4.6 5.27 9.10 10.3 10.12~14 11.21 3.5 3.11 3.28	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 49 期生（42 名入学） 課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン） 歯科衛生士科第 48 期生宣誓式 臨地・臨床実習開始（～H29.9.29） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕 研修旅行（関西） 球技大会（市立体育館） 第 26 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 47 期生（44 名卒業） 第 26 回歯科衛生士国家試験合格発表（全員合格）	県人口 1,009,659 人（28.10.1） 4.16 熊本地震発生 8.8 今上天皇が象徴としての天皇 の務めなどについて、自ら の心情を表明した『お気 持ち』と題するビデオメッ セージを放送
平成 29 年度 4.6 5.26 9.9 10.2 10.11~13 11.22 3.4 3.10 3.28	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 50 期生（41 名入学） 課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン） 歯科衛生士科第 49 期生宣誓式 臨地・臨床実習開始（～H30.9.27） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕 研修旅行（関西） 球技大会（市立体育館） 第 27 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 48 期生（39 名卒業） 第 27 回歯科衛生士国家試験合格発表（全員合格）	県人口 995,374 人（29.10.1） 6.12 恩賜上野動物園でジャイ アントパンダのシンシン が 5 年ぶり 5 度目の出産 12.1 日本政府が皇室会議を開き、 天皇陛下の退位日を 2019 年 4 月 30 日に決定。皇太 子さまの即位を翌 5 月 1 日 とし、新元号を施行する
平成 30 年度 4.5 5.25 9.15 10.1 10.10 ~ 12 11.18 11.20 3.3 3.9 3.26	秋田県歯科医療専門学校入学式 歯科衛生士科第 51 期生（34 名入学） 課外活動（県立中央公園ピクニックゾーン） 歯科衛生士科第 50 期生宣誓式 創立 50 周年記念講演（さきがけホール 安生朝子氏） 臨地・臨床実習開始（～H 31.9.27） 〔歯科診療所、社会福祉施設、保健所、保育所・園〕 研修旅行（関西） 創立 50 周年記念式典・祝賀会（秋田キャッスルホテル） 球技大会（市立体育館） 第 28 回歯科衛生士国家試験 秋田県歯科医療専門学校卒業式 歯科衛生士科第 49 期生（40 名卒業） 第 28 回歯科衛生士国家試験合格発表	県人口 980,684 人（30.10.1） 6.13 「18 歳成人」改正民法成立 2022 年 4 月 1 日に施行 7.5 西日本が 5 日から数日間、 記録的な豪雨に襲われ死者 は、220 人を超えた 8 第 100 回全国高校野球選手 権記念大会、優勝は、春夏 制覇の大阪桐蔭、準優勝は 秋田県立金足農業高校 10.11 東京・豊洲市場が開場 11.29 ユネスコの無形文化遺産 に「男 鹿のナマハゲ」な ど年中行事 10 件からなる 「来訪人 仮面・仮装の 神々」の登録を決めた

学校役員・各種委員・教職員名簿

校長	星野 滋
副校長	杉田 達夫
教務部長	大淵 義孝
学校運営審議会委員	佐藤 金彦
	三浦 吉貴
	小松 純一
	平塚 新
	玉木 克弥
国家試験対策委員会	大淵 義孝
	三浦 吉貴
	小松 純一
	平塚 新
	玉木 克弥
事務局長	鈴木 寿
科長	吉田 律子
教務	金山奈穂美
	菊地 広美
	菅原由紀子
	石塚美波子
教務（非常勤）	山口 柳子
事務	成田 秋代

歴代講師名簿 (昭和43年度～平成30年度)

学科目名	講師名							
心理学	中村 四郎 岡田 温子	片岡 義信	倉田 正義	今野 和夫	谷口 清			
社会学	佐藤 文夫	袴田 市郎	福田 稔	仙波 昭彦				
生物学	加藤 君雄	廣川 忠男	川野辺英昭					
化学	竹村 安弘	齊藤 義一	岩田 朗子					
英語	飯田 正 朝倉 邦子 高橋久美子	春原 正彦 畑江 美佳	年代 正孝 谷川 賢治	小松 彰 小松 雅治	池田 柁博 金 クニ子			
経済学	堀江 正男	小西 尚志						
歯科衛生士概論	高橋 昭一 甫仮 貴子	菊池 正憲	渡辺 英雄	川村 孝子	中川 佳子			
解剖学一般 解剖学	池田 英雄 加藤 宏司 東 伸好	遠藤 正義 高橋 弥穂 入江 俊明	加藤 二郎 飯島 浩一 吉川 究	滝森 徹 妹尾 春樹	石沢 章光 今井 克幸			
組織学 組織発生学	中村 勤 大友 和夫	吉富 慎一 佐藤 充	高橋 弥穂 佐藤 岳哉	石沢 章光 今井 克幸	加藤 宏司			
口腔解剖学	小澤 琢彌 児玉 亮	青木 真一 大淵 義孝	阿部 真裕	川崎 淳	又井 庸生			
歯牙解剖学	石井 鎌吉 有明 一	鈴木 洋一 石成 宣良	田北 朗 玉木 克弥	古俣 静生 鈴木 克典	新山 重美			
歯牙スケッチ	佐藤 洋弐	三浦 捷也						
歯型彫刻	駒橋 典夫	山内 静						
生理学一般 生理学	小松 盛治 山田 勝也	斗ヶ沢照雄 城川 哲也	加藤 一郎 船木 聖己	滝森 徹	勝田 洋一			
口腔生理学	菅 義郎 柴田 貞彦	高橋 是崇 佐藤 正人	加藤 一郎 小笠原正卓	加藤 二郎 三嶋 理穂	石田 達郎			
病理学一般 病理学	武蔵 貞司 吉田 正行	工藤 眸 山本 洋平	吉岡 年明 鈴木 麻弥	大森 泰文 田口 歩美	西村 拓哉			
口腔病理学	武蔵 貞司	北林 博道	工藤 眸	齊藤 桂				
病理細菌実習	武蔵 貞司							
細菌学一般 微生物学	堀部 清元 佐々木達哉	佐藤 進	河原田 實	土橋 亨	佐藤 直大			
口腔細菌学 口腔微生物学	堀部 清元	佐藤 進	河原田 實	土橋 亨	武田 瞬			
薬理学一般 薬理学	上野 哲治 吉富 慎一	三浦 拓夫 佐藤 暢也	石田 泰 田中 利尚	野呂田正一 竹中 一哉	白石千代夫 畠山 忠臣			
歯科薬理学	豊間 隆 畠山 忠臣	石澤 順子	門間 正志	平塚 新	竹中 一哉			
口腔衛生学 口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ	齊藤 長俊 後藤 英盛 佐藤 勤一 奈良 宏周	永井 和男 永井 宏和 田村 光平	佐藤 義博 三好康太郎 福山 眞樹	碓氷 博 武田 秀男 多田 奈奈	堀部 元雄 大谷 真紀 金田 美奈			

衛生統計学 歯科衛生統計	小棚木昭夫 佐藤健一郎 木村 寛	三浦 直衛 島田 彰夫 金田 一衛	佐藤 英和 広瀬 明	太田 皓一 最上 伸司	石山 徹 上田 晴彦
衛生学一般 衛生学・公衆衛生学	後藤 幸子 佐々木嘉一	中道 敦子 佐藤 聡	島田 彰夫 佐藤 拓	石塚 永幸 工藤 卓奥	佐々木俊憲
栄養学 栄養指導学 栄養指導Ⅰ・Ⅱ	柴田 吉鶴	泉谷 泰弘	伊藤 靖子		
衛生行政学 衛生行政	笹尾 弘 伊勢 康男 豊田 典貴 高橋 勝弘	伊藤竹次郎 杉沢 静 伊藤 光仁 保坂 陽悦	西村 政雄 武田 良輔 小玉 敏広 県医務薬事課	三浦 愛子 三森 元雄 須藤 邦夫 柳原 清	進藤 宏 渡部 敬二 佐々木光弘
社会福祉学 社会福祉	中村 米吉 塩谷政史郎 谷田部知一 工藤 敦	稲葉 宏 市川 道夫 時岡 義幸 柴田 博	小田島昭二 津島 六郎 佐藤 剛 清水由美子	重松 寛 太田 義男 斎藤 広実	遠藤 一秋 高橋 雄二 藤本 剛
児童福祉学	菅原 末男				
歯科臨床概論	中村 正 深川 聖彦	野呂田正一 大塚和歌子	千葉 正明 杉田 達夫	石田 泰 菊地 雅明	千葉 利昭 原 隆志
保存学 歯科保存学 保存修復学 歯内療法学 歯周療法学	千葉 正人 佐藤 直志 竹内 亨 五味 明雄	遠藤 雅之 玉木 修 佐々木俊哉 玉木 直哉	菊池 正憲 小原 茂 堀川 信行	高橋 陽一 戸田 牧子 相場 隆広	小野 卓夫 石田 達郎 佐藤 直人
治療学	三浦 捷也	上野 哲治	千葉昭八郎	佐藤 裕子	中道 敦子
補綴学 歯科補綴学	佐藤 洋弑 武蔵 哲貞	佐藤 幹夫 佐藤 正人	阿部 権重	佐藤 暢也	有明 徹
外科学 口腔外科学	稲葉 吉彦	白根 宏二			
小児歯科学	吉富 慎一 高橋 文明 千葉 利昭	寺崎 高明 秋野 一尚	熊谷 仁志 鈴木 尚英	泉谷 百穂 安藤 葉介	守口 修 藤田 俊哉
矯正学 矯正歯科学 歯科矯正学	広幡富貴子 加藤 一郎 高橋 弘	広幡 直純 上野 哲治 山内 積	菅原 栄悦 平塚 新 安藤 葉介	伊藤 修 簾内 俊博	柏木 喜広 田中 寛
予防処置 歯科予防処置	滝口 茂	竹内 柏夫	千葉昭八郎		
歯科診療補助総論	中村 正				
歯科診療補助各論	千葉 正人				
歯科診療補助 X線学 歯科診療補助Ⅰ—2 歯科診療補助Ⅱ—1 歯科放射線学	井上 昭 中村 嘉夫 片野 泰夫 戸田 牧子	三浦 捷也 玉木 修 杉田 達夫 佐藤 弘樹	高橋 昭一 斎藤 長俊 佐々木 健 大谷 真紀	有明 一 今泉 政業 柏木 喜広 甫飯 貴子	滝口 茂 大淵 義孝 井関 時男
診療補助実習	泉谷 泰弘 三浦 捷也	高橋 是崇 有明 一	高橋 昭一	千葉 正人	佐藤 洋弑
口腔清掃	上野 哲治	泉谷 泰弘	滝口 茂	高橋 是崇	高橋 昭一
臨床検査 歯科診療補助Ⅱ—2	三浦 拓夫 小山田 一 羽生 昭子 秋田大学中央検査部	海野 勝男 小原 俊陰 菅場 広之	熊谷 新 荏原 順一 足立 哲也 京野敬次郎	榊 尚男 津田 晃 小林 美佳 奈良 幸一	上杉 四郎 飛田 正子
医療倫理学 倫理学	稲葉 宏 佐藤 正孝 井関 時男 菅原 俊信	遠藤 一秋 玉木 修 斎藤 長俊 斎藤 順益	堀部 清元 豊間 隆 高橋 文明 鎌田 英伸	有明 次郎 広幡 直純 鈴木 洋一 仙波 昭彦	佐藤 利實 石田 宏 荘司 薫

医療保険	遠藤 一秋 石田 宏	豊間 隆 木村 貞昭	狩野 博行 立花 透	太田 晃 工藤 充康	菊池 正憲
美学	伊藤 康夫				
歯科衛生士の心得について	堀部 清元				
障害者歯科学 障害者歯科学(演習)	戸田 牧子 猪狩 俊郎	高野 裕史 大瀧 祥子	岩手医科大学障害者歯科学分野		
高齢者歯科学 高齢者歯科学(演習)	日諸 雅人	菊池 友幸	石塚 永幸	大淵 泰彦	
訪問歯科指導	伊藤 寿				
臨床基礎実習	鷲谷 一晴	奈良 宏周			
医療事務・情報処理	井深 昇平	株式会社シグマソリューションズ			
隣接医学	今井 克幸	日赤秋田県支部			
看護概論	三浦 睦子 石井 鈴子	川村 孝子 佐藤美香子	中川 佳子	戸井田ひとみ	甫飯 貴子
コミュニケーション 論(カンパニング 技法含)	清水由美子				
接遇(受付業務・マナー)	大久保道子	星 章夫	富永 美樹	高城 健一	
卒業研究 卒業研究Ⅰ・Ⅱ	正井 佑典	小松 純一			
ホームヘルパー2級課程 訪問介護員2級課程 介護支援専門員課程	井関 時男 佐藤 了子 渡辺留美子 藤本 剛 石井 鈴子 関谷 重昭 日赤秋田県支部	倉田 正義 今井 克幸 鎌田 和子 東 伸好 吉川 究 大野 高洋 佐藤 正人	野村 康子 伊藤 清明 鎌田伊真子 工藤 敦 後藤 英盛 渡辺 明美 佐藤美香子	難波はつ子 柴田 博 大滝 和枝 井上 睦子 清水由美子 岡田 温子	菅原 慶勇 稲岡 一枝 佐藤アイ子 入江 俊明 戸島 順子 渡邊 暢
臨床実習	秋田県立中央病院歯科 有明 次郎 小沢 雄象 小西幸次郎 遠藤 一秋 五味 壮 能代医療会 萩原 幸寿 加藤 二郎 酒樹 徳悦 稲葉 武 豊間 隆 斎藤 長俊 安藤 誠 武田 馨 泉谷 泰弘 秋田大学歯科口腔外科 藤田 成範 佐藤 幹夫 石澤 順子 三浦 吉貴 佐藤 拓 熊谷 仁志 佐藤 弘樹 正井 佑典 谷本 博明 小林 崇之 深川 聖彦 熊谷 克己	稲葉 吉彦 千葉 桃八 佐藤 進 河原田 實 佐々木リ工 富塚 清一 岡部 貢 今泉 政業 中村 嘉夫 五味 武一 佐藤 良俊 斉藤 光博 石田 達也 工藤 和子 後藤 幸子 高橋 鉄重 玉木 修 佐々木嘉一 最上 伸司 千葉 利昭 佐藤 暢也 大塚和歌子 松野 才 工藤 卓奥 鷹嘴 裕 鷲谷 一晴 小番 孝司	飯塚 修三 高橋 是嵩 千葉 正人 加藤猪太郎 武蔵 貞司 小澤 琢彌 須藤 英子 野呂田正一 大淵 義孝 山内 静 工藤 忠利 児玉 明 伊藤 為吉 石田 達郎 作々部公寿 佐藤 義博 石田 泰 後藤 涉 真宮 光彦 佐藤 浩幸 有明 徹 三浦 利之 杉山 洋行 大塚 英幸 後藤 英盛 佐藤 直人 畠山 忠臣 武田 瞬 守口 修	中村 正 小柳 鎮雄 佐藤 洋式 加藤 一郎 鈴木 滋 松野 和 高久 勝治 吉富 慎一 有明 一 阿崎 耕司 佐藤 勇蔵 阿部 権重 伊藤 修 中村 実 船木 喜一 滝口 茂 小川 定雄 志村 博 簾内 俊博 泉谷 百穂 田中 寛 安井 新紀 工藤 正仁 佐藤 勤一 清水 隆夫 齊藤 桂 堀川 信行 星野 守	山内 馨児 早川 三郎 上野 哲治 神田 栄子 井上 昭 石井 鍊吉 千葉昭八郎 佐藤 俊男 遠藤 雅之 高野 桂悦 豊間 健三 広幡富貴子 金内 光夫 広幡 直純 高橋 ハナ 渡部光太郎 田中 春雄 山蔦 正雄 原 茂樹 柏木 喜広 佐々木俊哉 石川 承平 石井 秀彦 橋本 徹 森山 広之 大久保 圭 鈴木 洋一 佐藤 智幸



社会福祉施設歯科巡回臨床実習 (臨地実習)	堀部	清元	中村	嘉夫	武蔵	貞司	三浦	捷也	有明	一
	井上	温雄	相場	進	石田	達也	玉木	修泰	泉谷	弘
	小川	明彦	柏木	喜広	白根	宏二	石田	木俊	今泉	政業
	酒樹	徳悦	佐藤	義博	遠藤	雅之	佐々木	慎一	大渕	義孝
	佐藤	正修	佐藤	幹夫	真宮	光彦	吉富	祐一	狩野	博行
	伊藤	生一郎	石成	宣良	南浦	公夫	常盤	晃嗣	高橋	真透
	佐藤	毅隆	下田	光博	中村	勤秀	小野	咲圭	立花	秀男
	奥山	泰彦	木下	知之	武田	男一	野中		海塩	舞子
	若狭		杉田	達夫	金田		大久保		中田	
	大渕		古谷	博子						

編集後記

何かにつけて「平成最後の」が枕詞になる年度に一区切りとなる50周年記念誌を発行できました。なんとか新元号をまたがずに済んだ事に安堵しています。

日々の歯科医療は歯科衛生士だけでなく歯科技工士も含めて国家ライセンスを持つスタッフに支えられてはじめて成り立ちます、地域住民の医療需要に応えるには歯科医師一人では不可能です。スタッフには日々「一緒に働いてくれてありがとう」という感謝の気持ちで接しなければならないと感じています。そんな大事な仕事仲間を毎年輩出している学校が50周年を無事迎えたことは喜ばしい限りです。

本校については前に30周年記念誌を発行しておりますが、この20年間でも医療の常識が覆るような展開が多々あり、小児アレルギーや褥瘡治療の治療方針の転換などは衝撃的でしたが、歯科においてもいつまでも過去の知識に頼っていては恥をかくばかりでなく実際に患者さんに迷惑をかけてしまいます。現時点での学術的知識常識がいつまたひっくり返るかもしれません、卒業はしても生涯勉強です。10年一昔と言いますが、20年50年たつと本当に様々なことが変化したはずです。すべてのことが学びである意識をもって診療にあたってほしいと思いますし、自分もそうあらねばと思います。本誌を目にさせていただいて、ただ懐かしむだけでなく、これをきっかけに今までの自分の歩みを振り返ってみていただけると嬉しいです。また、この先の自分がどうなっていくのか思いを馳せていただきより一層の努力への礎としていただければ甚だ幸いです。

今この編集後記を書いている平成最後の年は、若者の人口減や高齢者の大量退職、東京都圏への一極集中の激化などから秋田県の若年世代の人手不足が深刻化しており、特に歯科衛生士のなり手が急激に減ってきている厳しい現状があります。この次にまた創立〇周年記念事業ができますよう皆で頑張っていきましょう。

最後に、本誌の実質的な制作チームだった学校教務吉田律子さん、事務局成田秋代さんに深く感謝します。この企画が立ち上がった当初一体どうしたらいいのかと不安でしたが、おかげで無事発行できました、ありがとうございました。

秋田県歯科医師会広報理事 相庭 慎太郎

発行月 平成31年3月
発行 一般社団法人 秋田県歯科医師会
〒010-0941 秋田市川尻町字大川反170番地102
TEL 018-865-8020
編集 秋田県歯科医療専門学校歯科衛生士科
〒010-0976 秋田市八橋南1丁目8番8号
TEL 018-865-4431
写真提供 株式会社 さわき写真館
印刷 株式会社 塚田美術印刷
